

さいたま市立小・中・高等・中等教育学校
児童生徒の生活実態に関する
アンケート調査結果

さいたま市教育委員会

令和4年11月

目次

I 調査の概要	P1
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査方法	
4 調査時期	
5 回収状況	
6 その他	
II 市立小学校児童について（調査結果）	P2
1 現在の健康状態について	
（1）健康状態	
2 ふだんの生活について	
（1）学校への通学状況：出席状況	
（2）学校への通学状況：遅刻や早退の状況	
（3）習い事の状況	
（4）ふだんの学校生活等であてはまること	
（5）現在の悩み	
（6）悩みの相談相手・話を聞いてくれる人の有無	
3 家庭や家族のことについて	P7
（1）世話をしている家族の有無	
（2）世話を必要としている家族	
（3）父母の状況	
（4）祖父母の状況	
（5）きょうだいの状況	
（6）「その他」の人の状況	
（7）世話の内容	
（8）世話を一緒にしている人	
（9）世話を始めた年齢	
（10）世話をしている頻度	
（11）平日1日あたりに世話に費やす時間	
（12）世話をしていることで経験したこと	
（13）世話の大変さ	
（14）世話について相談した経験	
（15）世話についての相談相手	
（16）世話について相談していない理由	
（17）世話について話を聞いてくれる人の有無	
（18）学校や周りの大人にしてもらいたいこと	
（19）話を聞いたり相談にのったりしてほしい方法	

4 ヤングケアラーについて	P24
(1) ヤングケアラーの認知度	
(2) ヤングケアラーについて知ったきっかけ	
5 自由記述	P26
III 市立中・中等教育学校生徒について (調査結果)	P30
1 現在の健康状態について	
(1) 健康状態	
2 ふだんの生活について	
(1) 学校への通学状況：出席状況	
(2) 学校への通学状況：遅刻や早退の状況	
(3) 部活動への参加状況	
(4) ふだんの学校生活等であてはまること	
(5) 現在の悩みや困りごと	
(6) 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無	
3 家庭や家族のことについて	P35
(1) 世話をしている家族の有無	
(2) 世話を必要としている家族	
(3) 父親の状況、お世話の内容	
(4) 母親の状況、お世話の内容	
(5) 祖父の状況、お世話の内容	
(6) 祖母の状況、お世話の内容	
(7) きょうだいの状況、お世話の内容	
(8) 「その他」の人の状況、お世話の内容	
(9) 世話を一緒にしている人	
(10) 世話を始めた年齢	
(11) 世話をしている頻度	
(12) 平日1日あたりに世話に費やす時間	
(13) 世話をしていることで、やりたいけれどできていないこと	
(14) 世話のきつさ	
(15) 世話について相談した経験	
(16) 世話についての相談相手	
(17) 世話について相談していない理由	
(18) 世話について話を聞いてくれる人の有無	
(19) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援	
4 ヤングケアラーについて	P58
(1) ヤングケアラーの自覚	
(2) ヤングケアラーの認知度	

- (3) ヤングケアラーについて知ったきっかけ
- (4) ヤングケアラーの支援に関する情報の必要性

5 自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P61

IV 市立高等学校生徒について（調査結果）・・・・・・・・・・・・・・・・ P67

1 現在の健康状態について

- (1) 健康状態

2 ふだんの生活について

- (1) 学校への通学状況：出席状況
- (2) 学校への通学状況：遅刻や早退の状況
- (3) 部活動への参加状況
- (4) ふだんの学校生活等であてはまること
- (5) 現在の悩みや困りごと
- (6) 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

3 家庭や家族のことについて・・・・・・・・・・・・・・・・ P72

- (1) 世話をしている家族の有無

4 ヤングケアラーについて・・・・・・・・・・・・・・・・ P73

- (1) ヤングケアラーの自覚
- (2) ヤングケアラーの認知度
- (3) ヤングケアラーについて知ったきっかけ
- (4) ヤングケアラーの支援に関する情報の必要性

5 自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P76

調査の概要

1 調査目的

市立小・中・高等・中等教育学校におけるヤングケアラーと思われる児童生徒数や実態を把握し、その後のケアや支援に繋げる

2 調査対象

市立小学校6年生及び市立中・高等・中等教育学校1年生の児童生徒
23,398人

3 調査方法

一人一台端末を主に使用し、インターネット上で回答

4 調査時期

令和4年9月5日（月）から9月16日（金）

5 回収状況

	有効回答数（人）	有効回答率（％）
全体	20,565	87.9
市立小学校	10,368	89.0
市立中・中等教育学校	9,495	88.1
市立高等学校	702	71.9

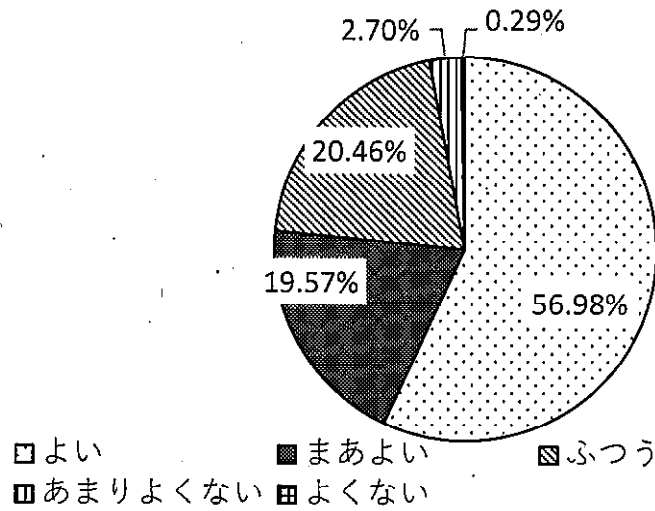
6 その他

- ・設問によっては複数回答であるため、割合の合計が100%にならない。
- ・集計の際、割合を四捨五入して計算しているため、割合の合計が100%にならない場合がある。

II 市立小学校児童について（調査結果）

1 現在の健康状態について

(1) 健康状態

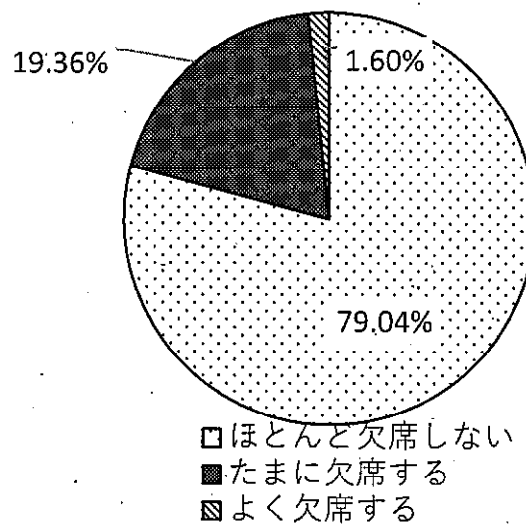


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
10,368	5,908	2,029	2,121	280	30
	56.98	19.57	20.46	2.7	0.29

2 ふだんの生活について

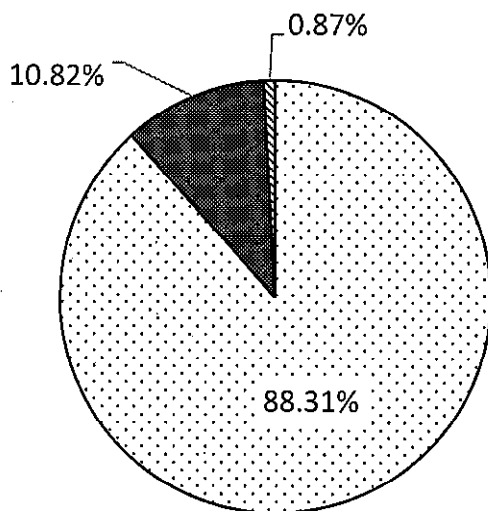
(1) 学校への通学状況：出席状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
10,368	8,195	2,007	166
	79.04	19.36	1.6

(2) 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

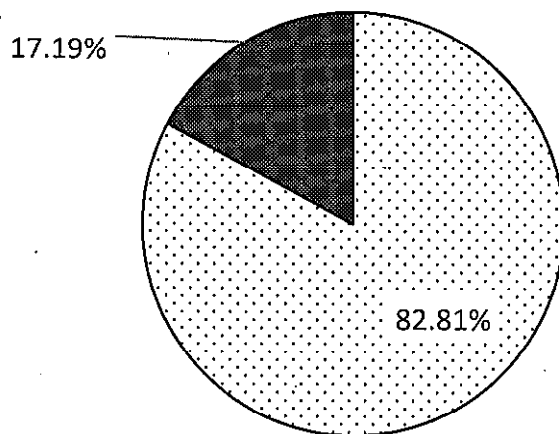


□ほとんどしない ■たまにする ▨よくする

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんどしない	たまにする	よくする
10,368	9,156	1,122	90
	88.31	10.82	0.87

(3) 習い事の状況

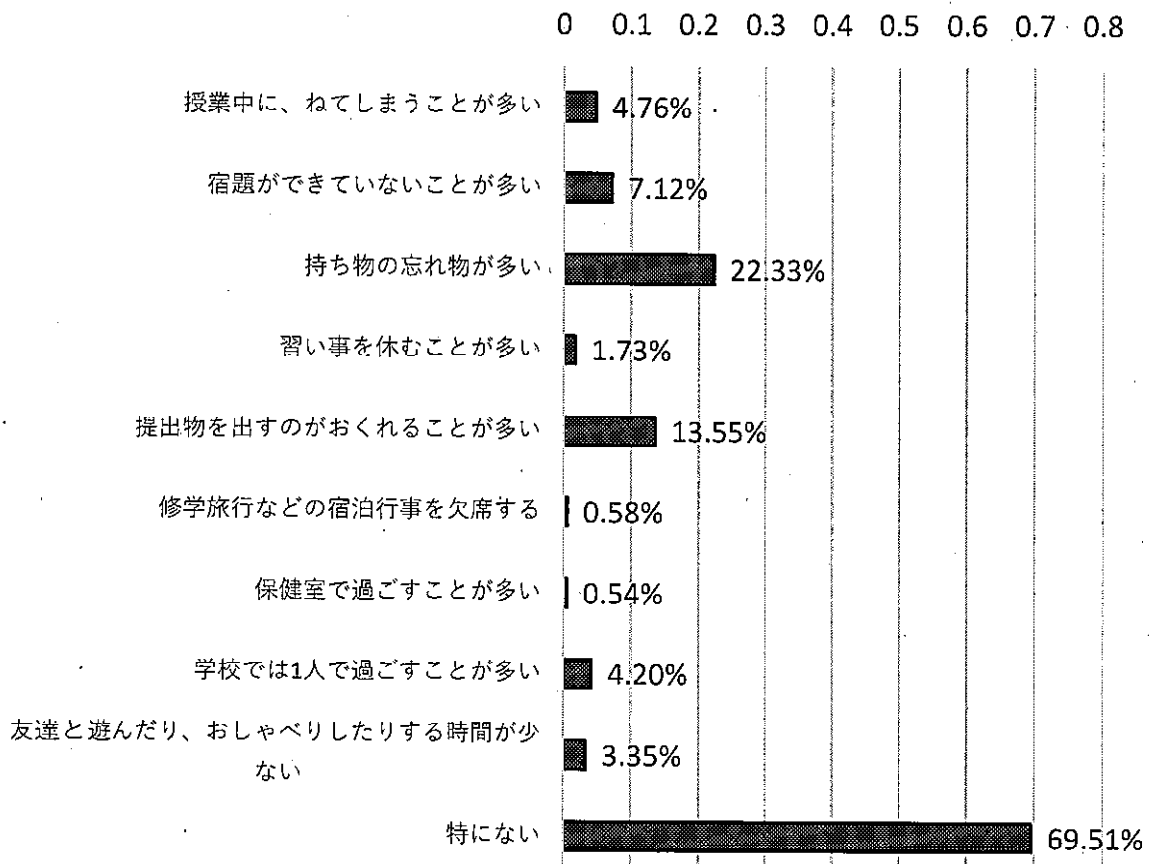


□している ■していない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	している	していない
10,368	8,586	1,782
	82.81	17.19

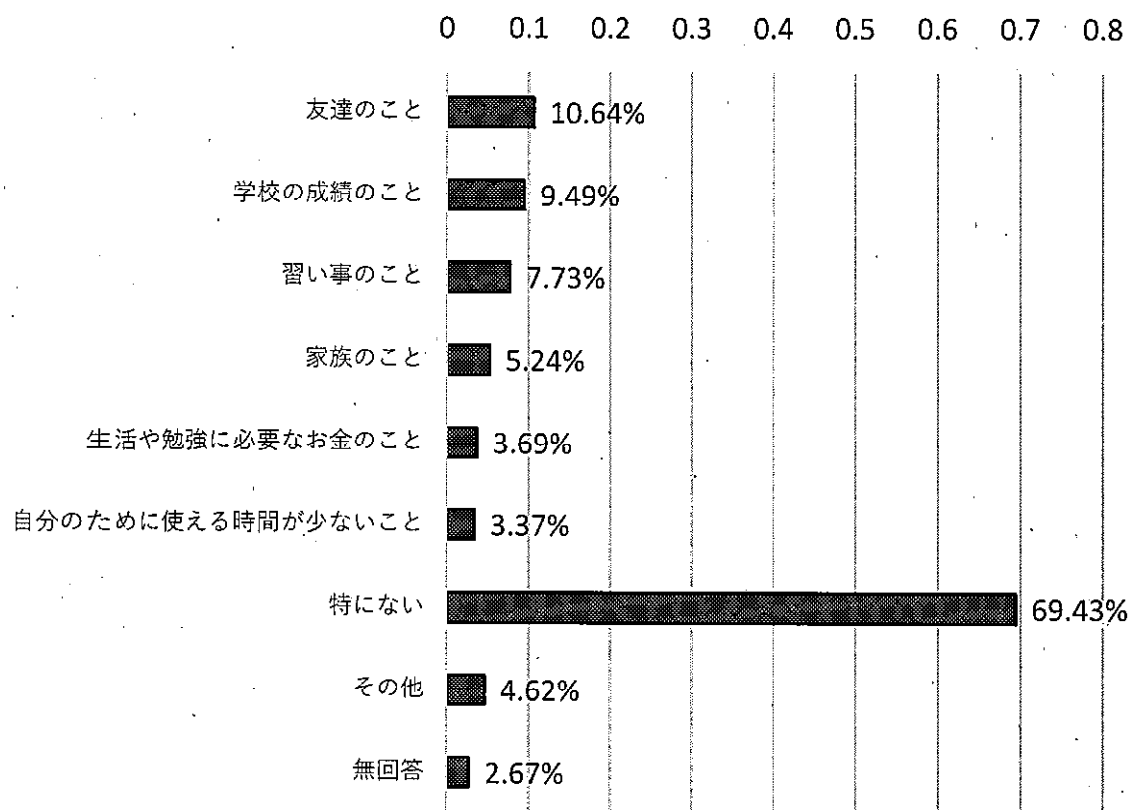
(4) ふだんの学校生活等であてはまること (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	授業中に、ねてしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのがおくれることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
10,368	493	738	2,315	179	1,405	60	56	435	347	7,207
	4.76	7.12	22.33	1.73	13.55	0.58	0.54	4.2	3.35	69.51

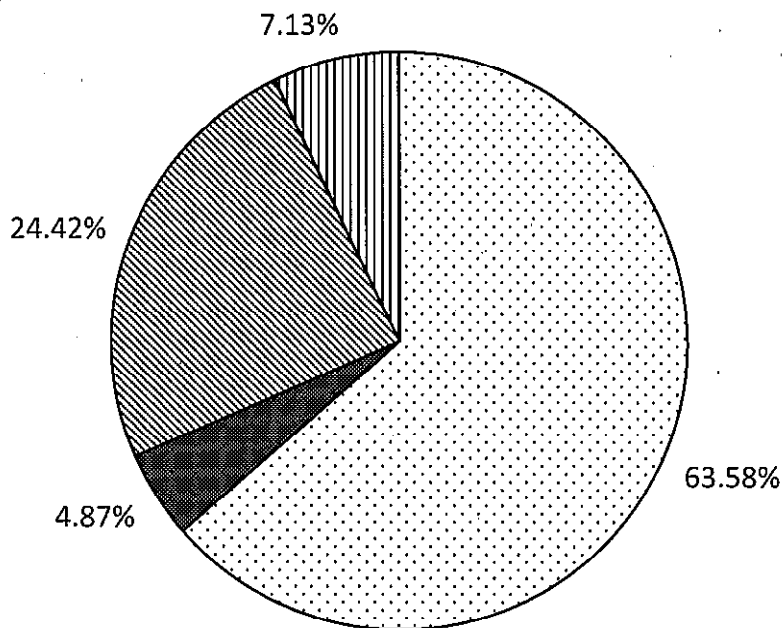
(5) 現在の悩み (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	友達の こと	学校の 成績の こと	習い 事の こと	家 族の こと	生 活や 勉強 に必 要な お金 の こと	自 分の た めに 使 え る 時 間 が 少 な い こ と	特 に な い	そ の 他	無 回 答
10,368	1,103	984	801	543	383	349	7,199	479	277
	10.64	9.49	7.73	5.24	3.69	3.37	69.43	4.62	2.67

(6) 悩みの相談相手・話を聞いてくれる人の有無



- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- ▨ 相談や話はしたくない
- ▩ 無回答

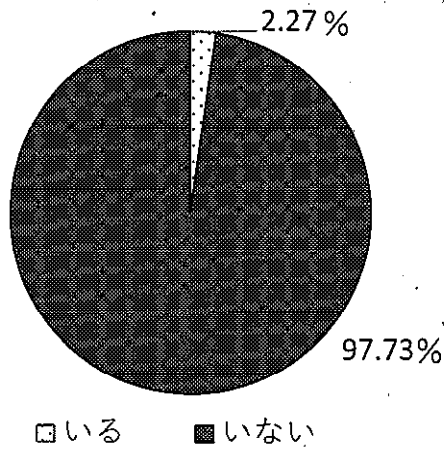
(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	て相談相手や話を聞いてくれる人がいる	て相談相手や話を聞いていない	い相談や話はしたくない	無回答
3,284	2,088	160	802	234
	63.58	4.87	24.42	7.13

※「該当者数」の 3,284 は、IIの2の(5)の現在の悩み(複数回答)において、「特にない」とのみ回答した数を有効回答数 10,368 から除いたもの。

3. 家庭や家族のことについて

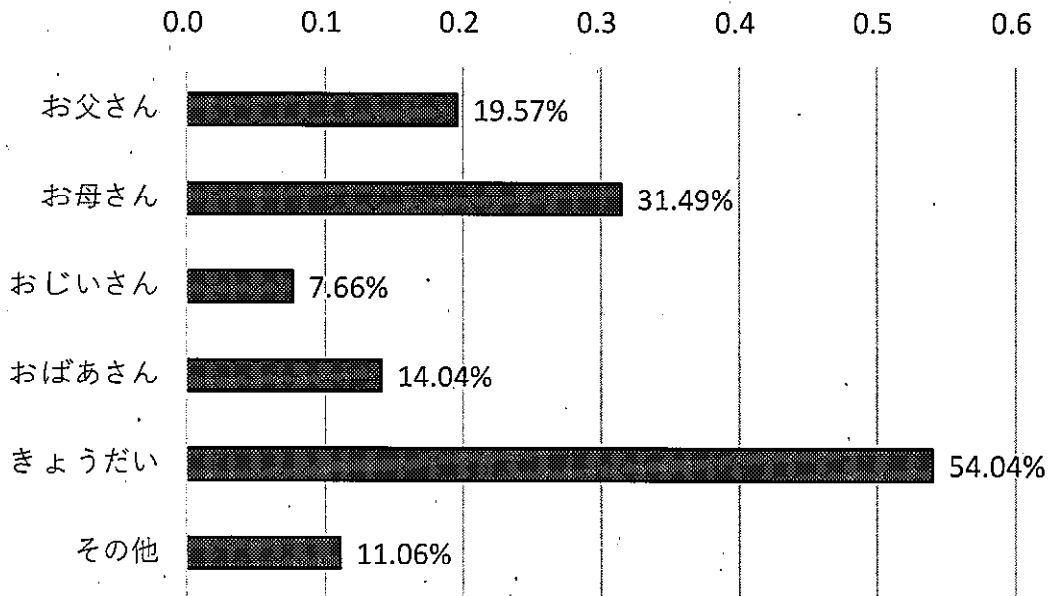
(1) 世話をしている家族の有無



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	いる	いない
10,368	235	10,133
	2.27	97.73

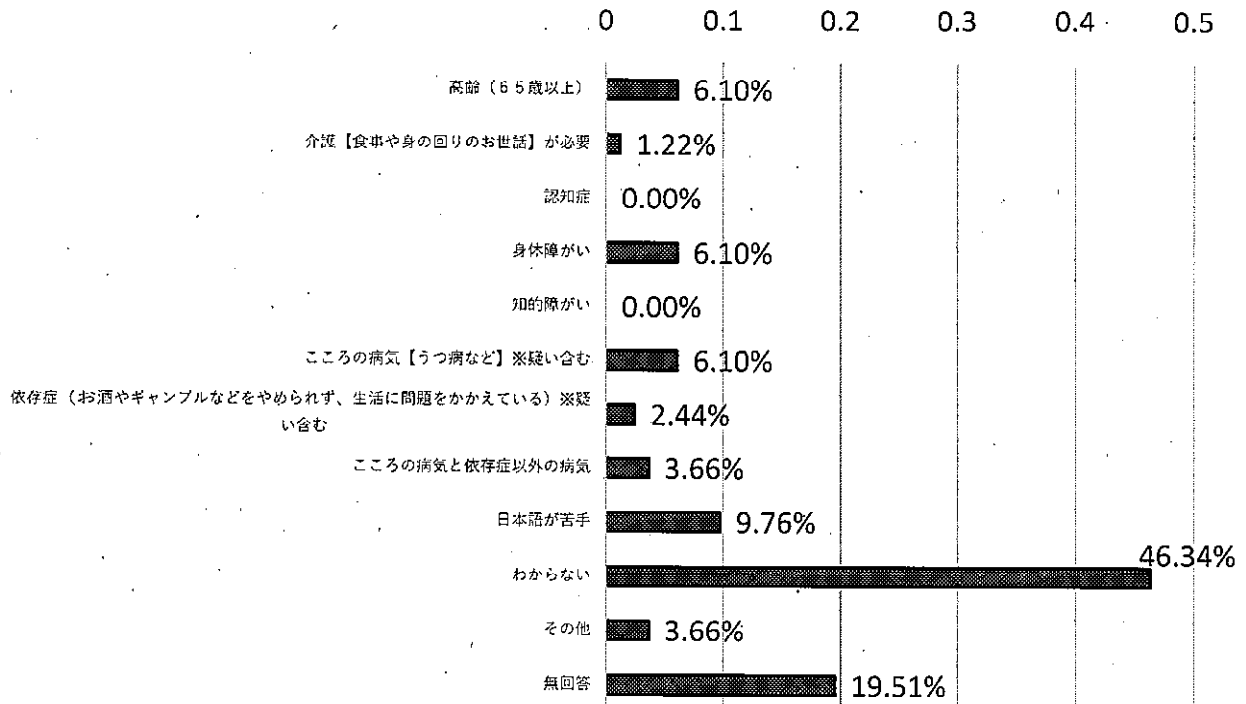
(2) 世話を必要としている家族 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	お父さん	お母さん	おじいさん	おばあさん	きょうだい	その他
235	46	74	18	33	127	26
	19.57	31.49	7.66	14.04	54.04	11.06

(3) 父母の状況 (複数回答)

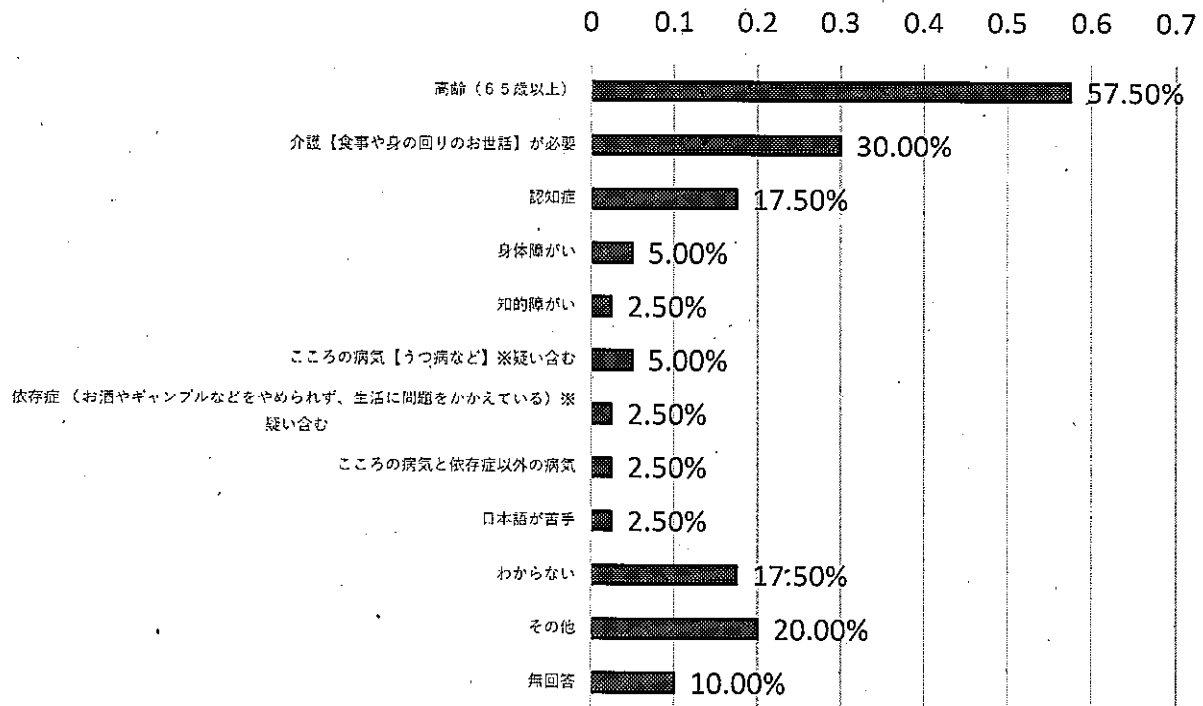


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	介護【食事や身の回りのお世話】が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	い含む	こころの病気【うつ病など】※疑い含む	依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題をかかえている) ※疑い含む	こころの病気と依存症以外の病気	日本語が苦手	わからない	その他	無回答
82	5	1	0	5	0	5	2	3	8	38	3	16	
	6.1	1.22	0	6.1	0	6.1	2.44	3.66	9.76	46.34	3.66	19.51	

※該当者数 82 は、IIの3の(2)の設問において、「お父さん」「お母さん」と回答した実人数。

(4) 祖父母の状況 (複数回答)

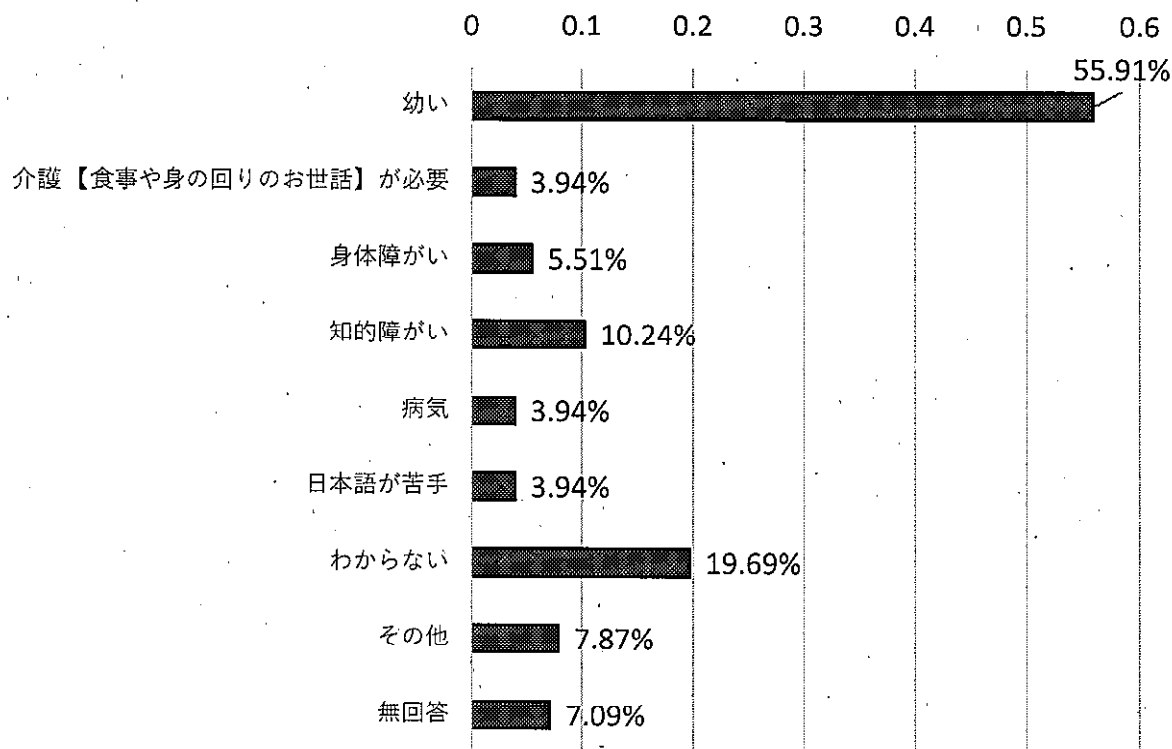


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	介護【食事や身の回りのお世話】が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	い含む	こころの病気【うつ病など】※疑い含む	依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題をかかえている) ※疑い含む	こころの病気と依存症以外の病気	日本語が苦手	わからない	その他	無回答
40	23	12	7	2	1	2	1	1	1	1	7	8	4
	57.5	30	17.5	5	2.5	5	2.5	2.5	2.5	2.5	17.5	20	10

※該当者数 40 は、IIの3の(2)の設問において、「おじいさん」「おばあさん」と回答した実人数。

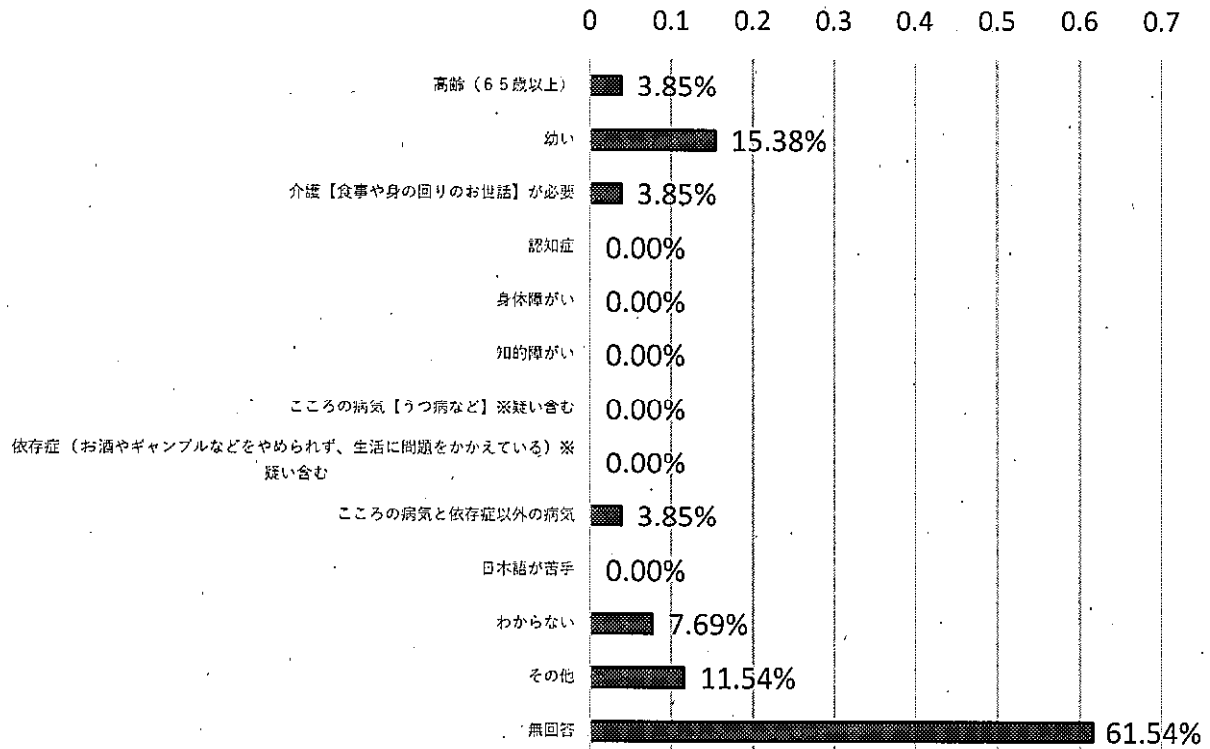
(5) きょうだいの状況 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	幼い	介護【食事や身の回りのお世話】が必要	身体障がい	知的障がい	病気	日本語が苦手	わからない	その他	無回答
127	71	5	7	13	5	5	25	10	9
	55.91	3.94	5.51	10.24	3.94	3.94	19.69	7.87	7.09

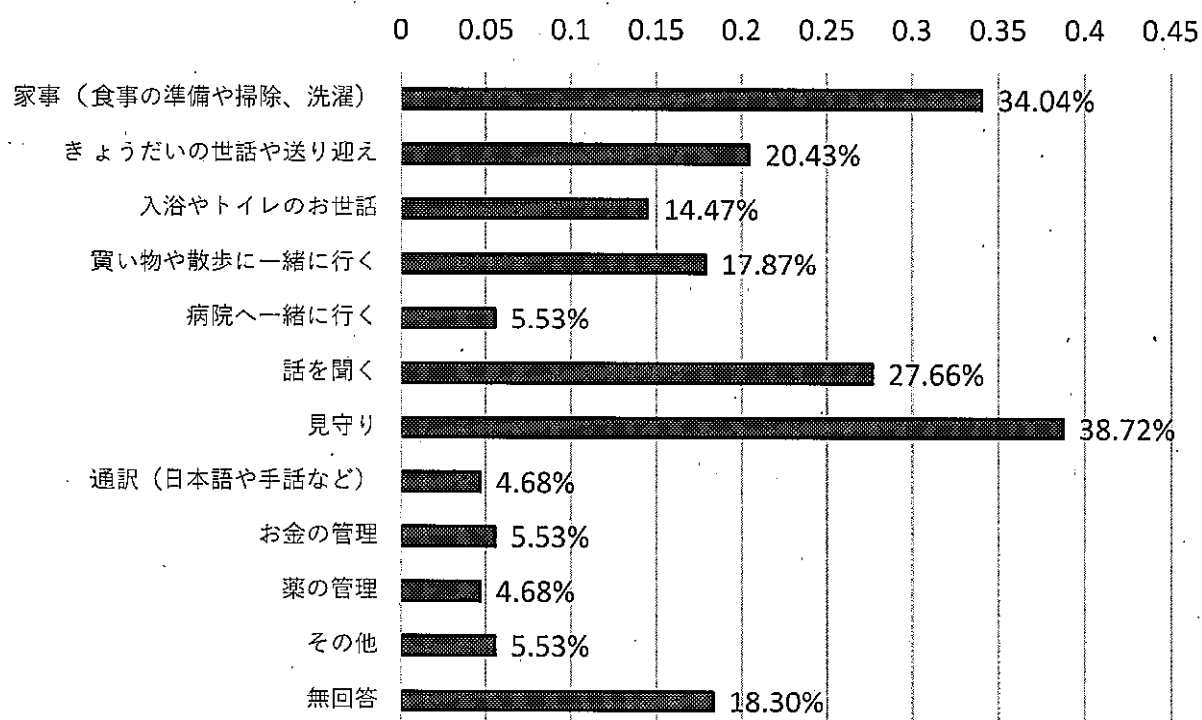
(6) 「その他」の人の状況 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	若い	必要 介護【食事や身の回りのお世話】が	認知症	身体障がい	知的障がい	含む こころの病気【うつ病など】※疑い	ず、生活に問題をかかえている) ※疑い含む	依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられ	こころの病気と依存症以外の病気	日本語が苦手	わからない	その他	無回答
26	1	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	16
	3.85	15.38	3.85	0	0	0	0	0	0	3.85	0	7.69	11.54	61.54

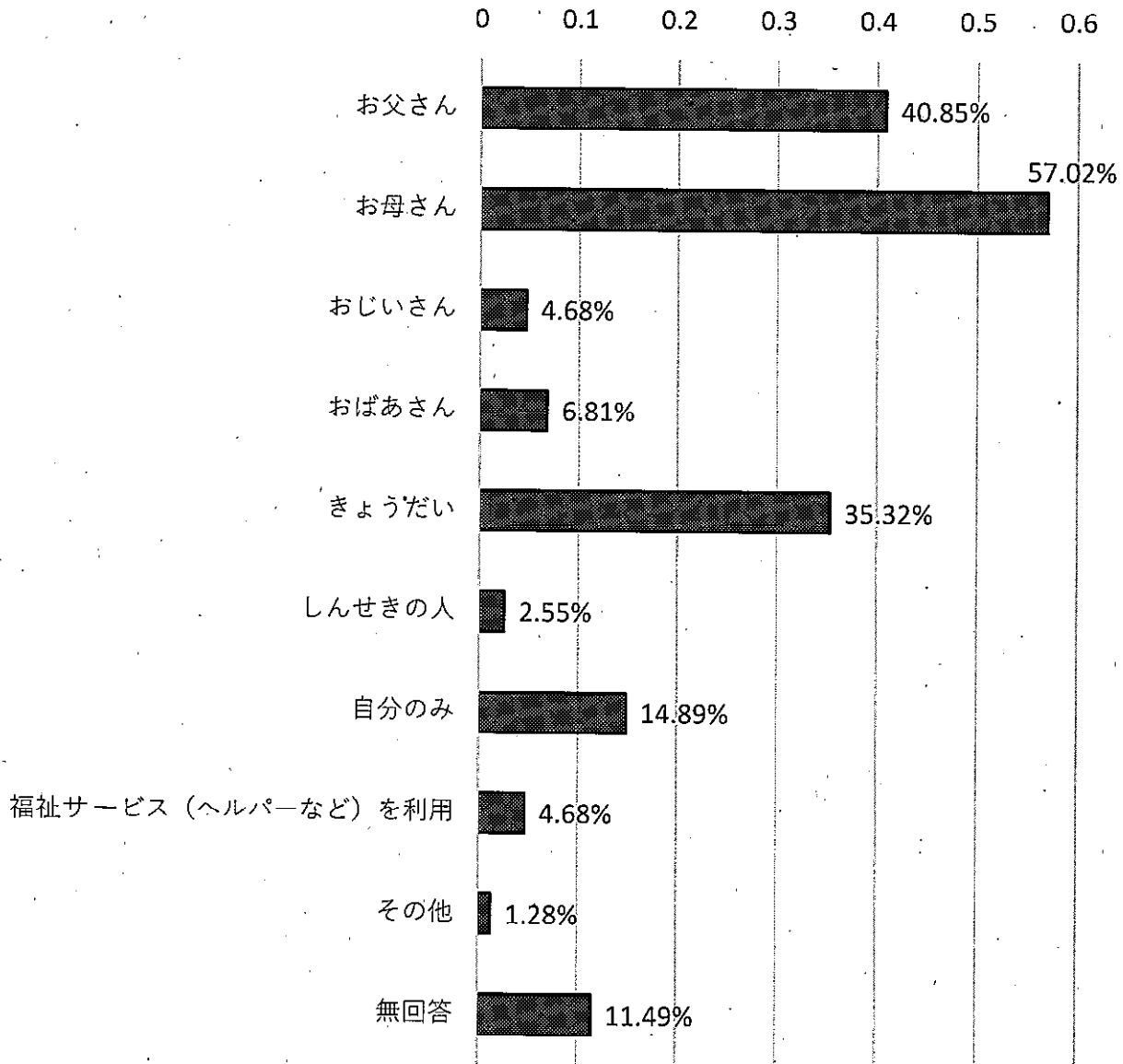
(7) 世話の内容 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	話を聞く	見守り	通訳 (日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
235	80	48	34	42	13	65	91	11	13	11	13	43
	34.04	20.43	14.47	17.87	5.53	27.66	38.72	4.68	5.53	4.68	5.53	18.3

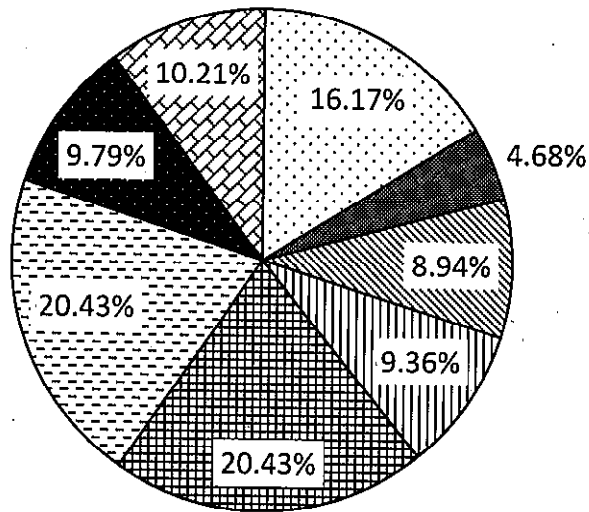
(8) 世話を一緒にしている人 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	お父さん	お母さん	おじいさん	おばあさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
235	96	134	11	16	83	6	35	11	3	27
	40.85	57.02	4.68	6.81	35.32	2.55	14.89	4.68	1.28	11.49

(9) 世話を始めた年齢

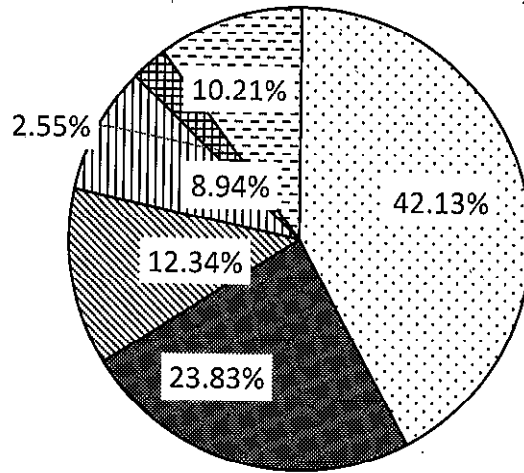


- 小学校入学前【～6才ころ】から
- 小学校1年生【7才ころ】から
- ▨ 小学校2年生【8才ころ】から
- ▩ 小学校3年生【9才ころ】から
- ▧ 小学校4年生【10才ころ】から
- ▦ 小学校5年生【11才ころ】から
- 小学校6年生【12才ころ】から
- ▨ 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	小学校入学前【～6才ころ】から	小学校1年生【7才ころ】から	小学校2年生【8才ころ】から	小学校3年生【9才ころ】から	小学校4年生【10才ころ】から	小学校5年生【11才ころ】から	小学校6年生【12才ころ】から	無回答
235	38	11	21	22	48	48	23	24
	16.17	4.68	8.94	9.36	20.43	20.43	9.79	10.21

(10) 世話をしている頻度

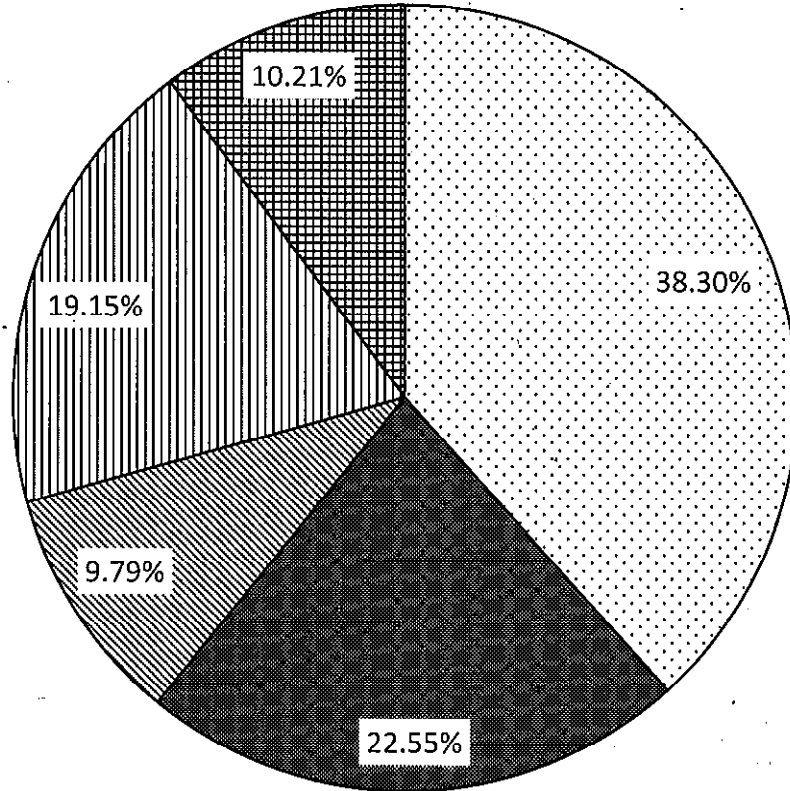


□ ほぼ毎日 ■ 週に3~5日 ▨ 週に1~2日
 ▩ 1か月に数日 ▤ その他 □ 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	無回答
235	99	56	29	21	6	24
	42.13	23.83	12.34	8.94	2.55	10.21

(1.1) 平日 1日あたりに世話に費やす時間

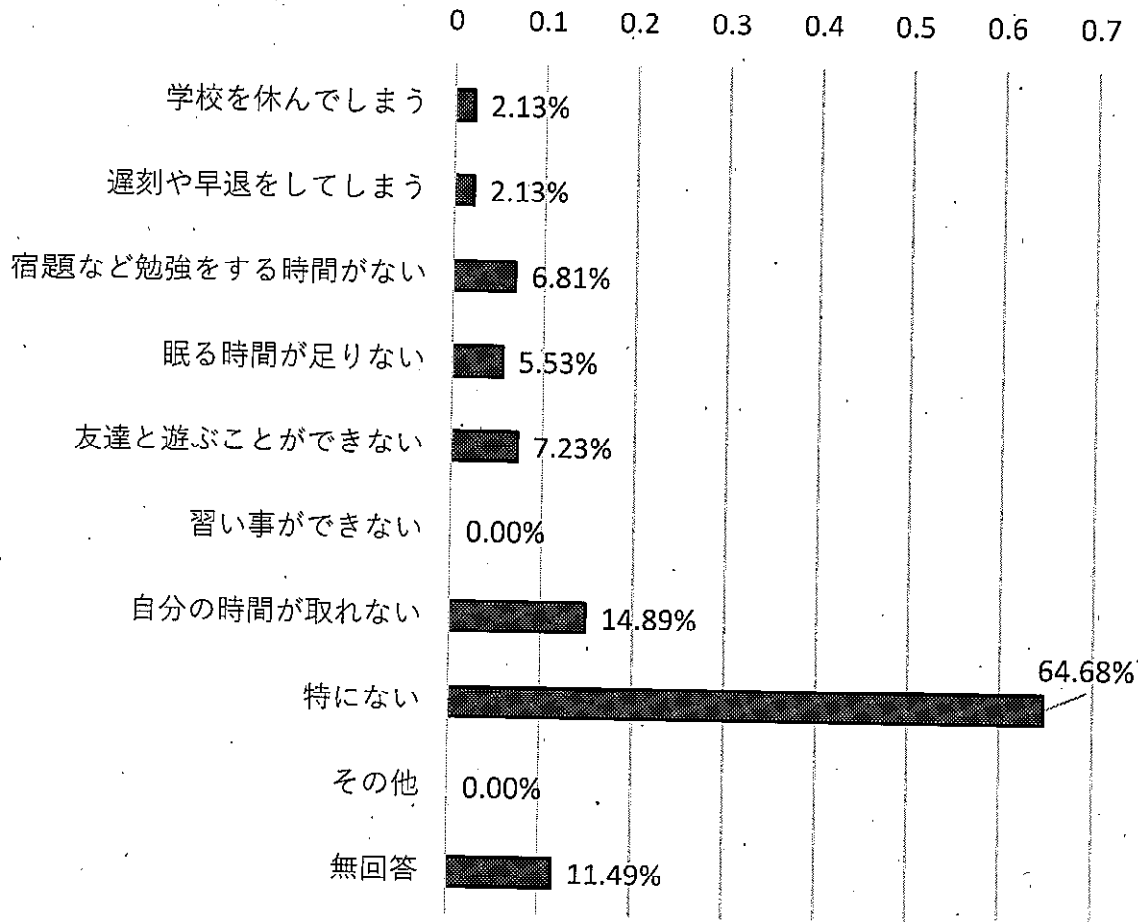


1時間未満
 1時間以上～2時間未満
 2時間以上～3時間未満
 3時間以上
 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上	無回答
235	90	53	23	45	24
	38.3	22.55	9.79	19.15	10.21

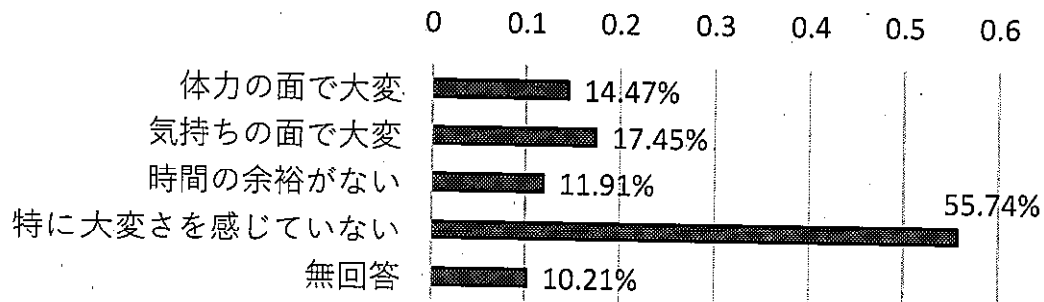
(12) 世話をしていることで経験したこと (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	がない宿題など勉強をする時間	眠る時間が足りない	い友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	特にない	その他	無回答
235	5	5	16	13	17	0	35	152	0	27
	2.13	2.13	6.81	5.53	7.23	0	14.89	64.68	0	11.49

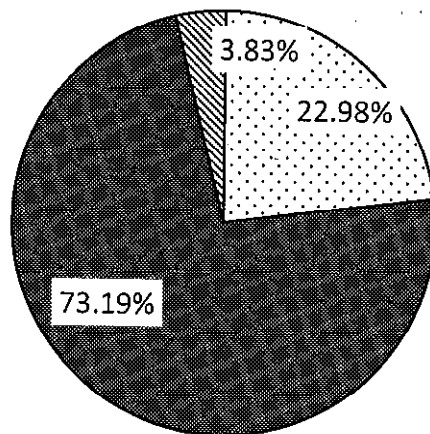
(13) 世話の大変さ (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さを感じていない	無回答
235	34	41	28	131	24
	14.47	17.45	11.91	55.74	10.21

(14) 世話について相談した経験

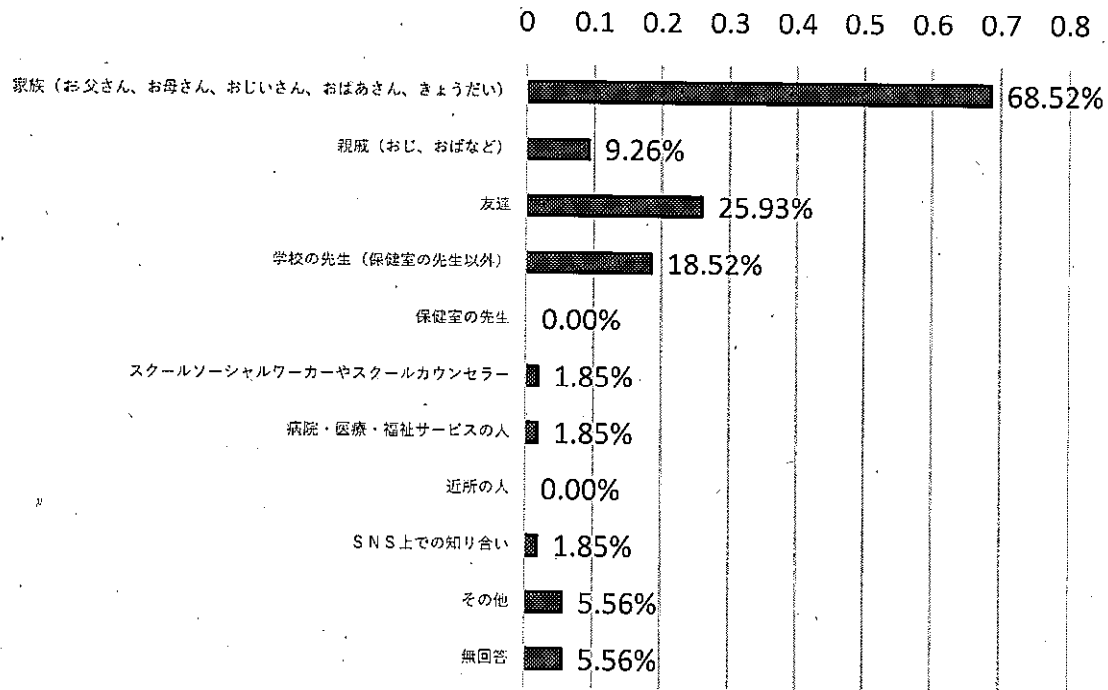


□ある ■ない ▨無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ある	ない	無回答
235	54	172	9
	22.98	73.19	3.83

(15) 世話についての相談相手 (複数回答)

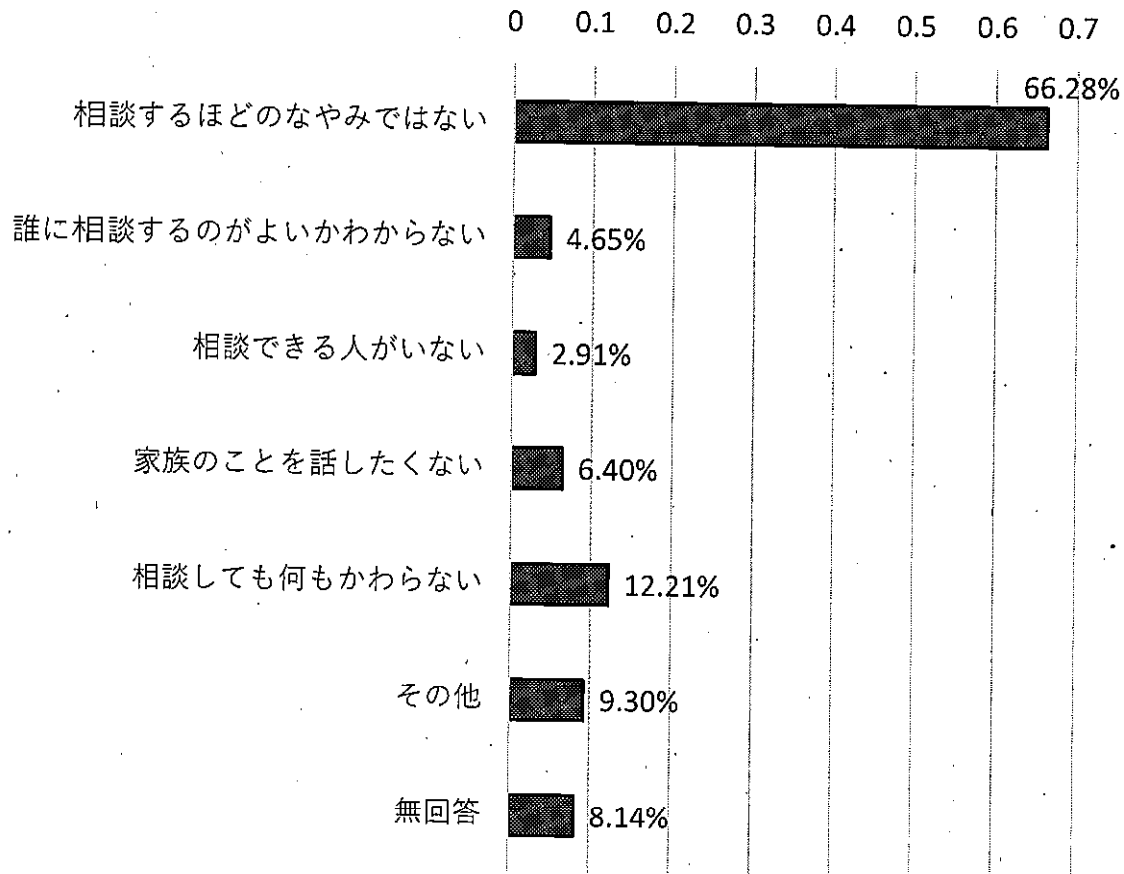


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	家族 (お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)	親戚 (おじ、おばなど)	友達	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生
54	37	5	14	10	0
	68.52	9.26	25.93	18.52	0

該当者数	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
54	1	1	0	1	3	3
	1.85	1.85	0	1.85	5.56	5.56

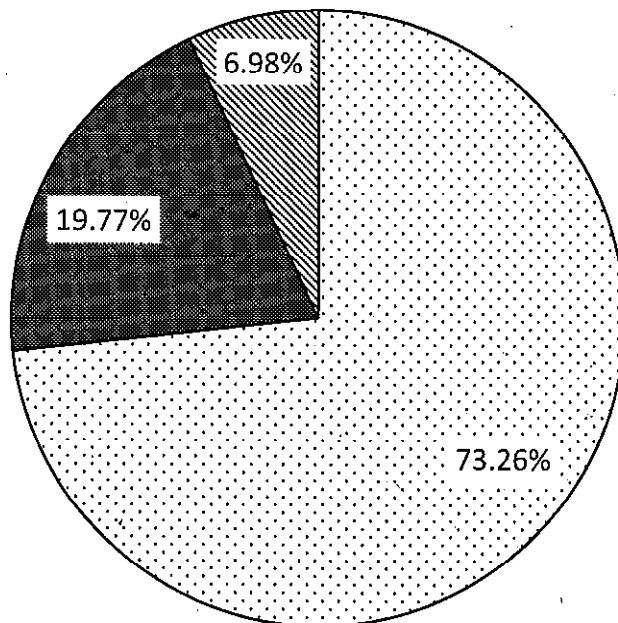
(16) 世話について相談していない理由 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	相談するほどのなやみではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人がいない	家族のことを話したくない	相談しても何もかわらない	その他	無回答
172	114	8	5	11	21	16	14
	66.28	4.65	2.91	6.4	12.21	9.3	8.14

(17) 世話について話を聞いてくれる人の有無

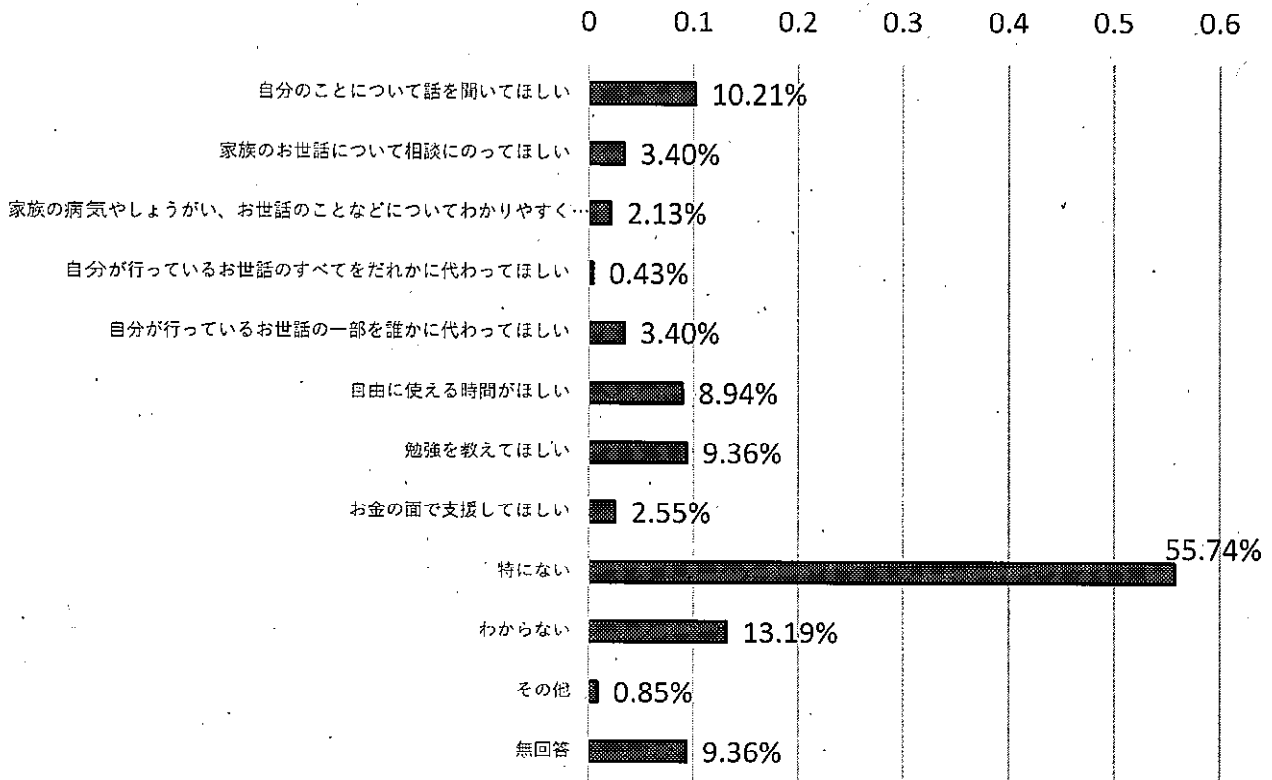


□ いる ■ いない ▨ 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	いる	いない	無回答
172	126	34	12
	73.26	19.77	6.98

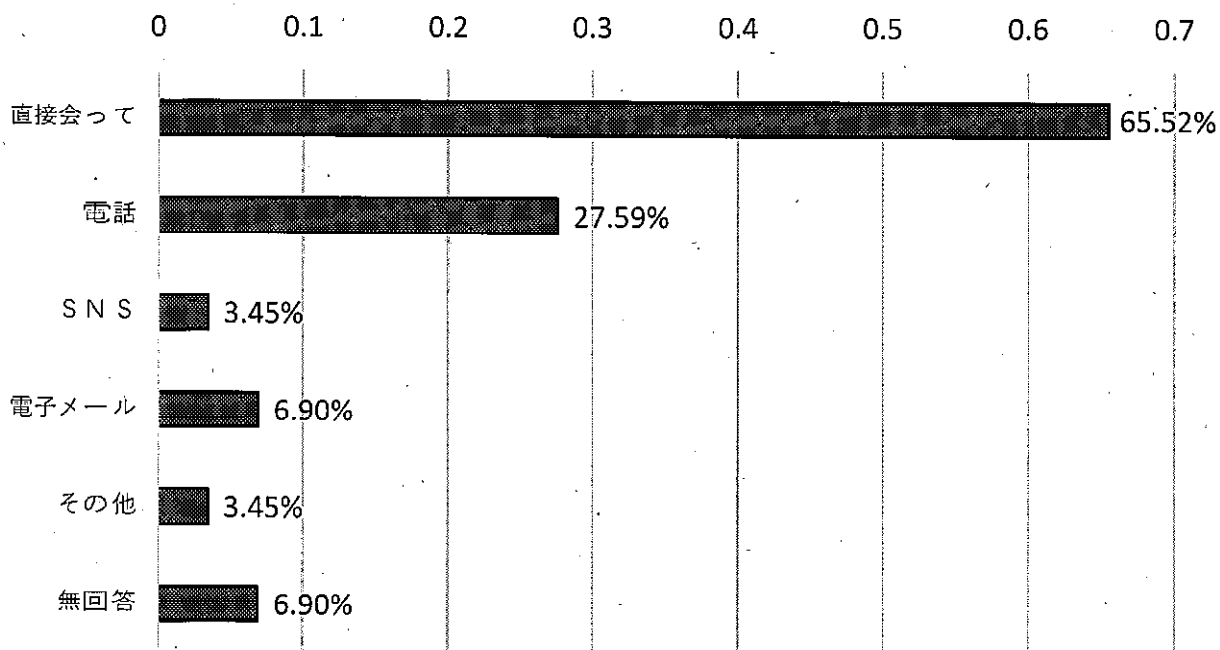
(18) 学校や周りの大人にしてもらいたいこと (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気やしょうがい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	だれかに代わってほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	特にない	わからない	その他	無回答
235	24	8	5	1	8	21	22	6	131	31	2	22	
	10.21	3.4	2.13	0.43	3.4	8.94	9.36	2.55	55.74	13.19	0.85	9.36	

(19) 話を聞いたり相談にのったりしてほしい方法 (複数回答)



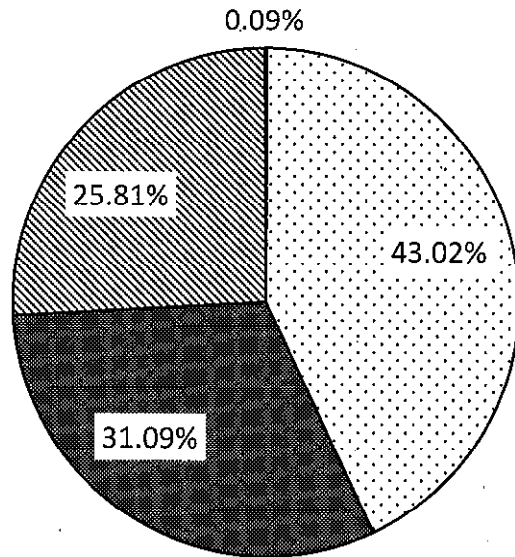
(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
29	19	8	1	2	1	2
	65.52	27.59	3.45	6.9	3.45	6.9

※「該当者数」の 29 は、IIの3の(18)の設問において、「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」のいずれかに回答した実人数。

4 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーの認知度



□ 聞いたことがあり、内容も知っている

■ 聞いたことはあるが、よく知らない

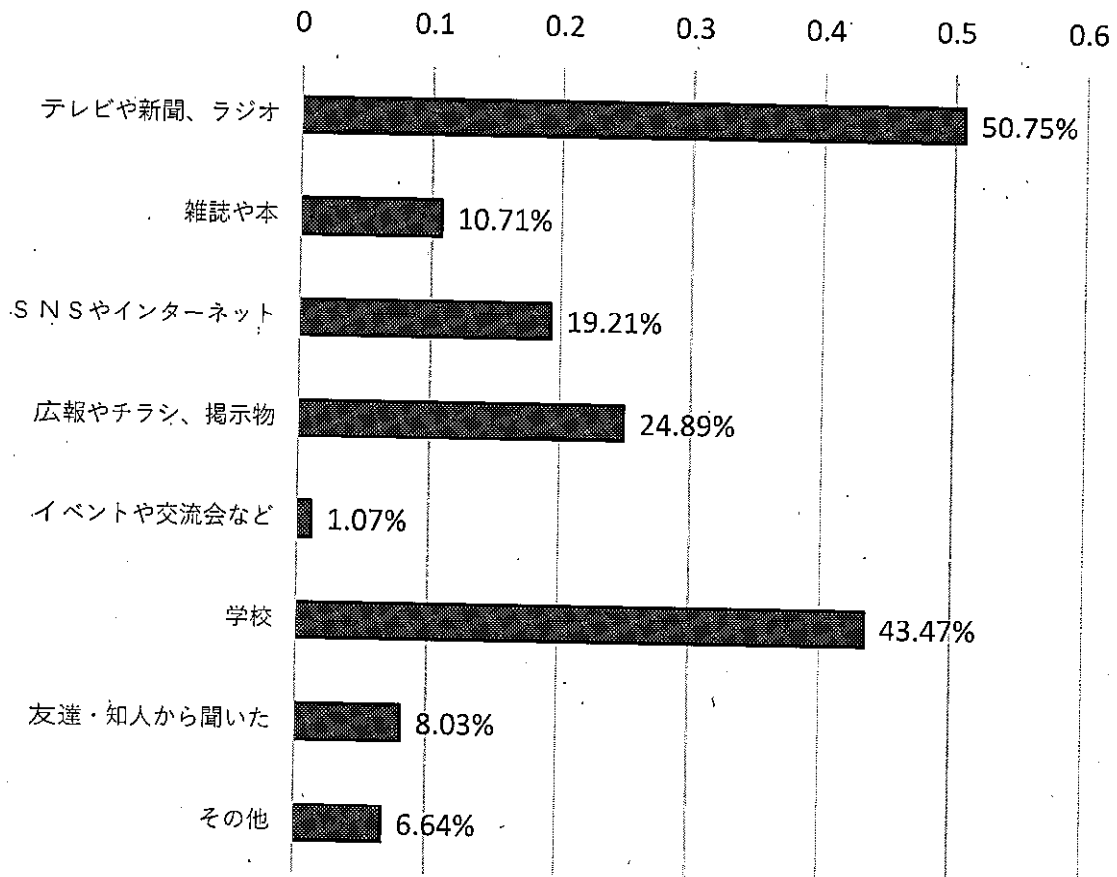
▨ 聞いたことはない

□ 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはある が、よく知らない	聞いたことはない	無回答
10,368	4,460	3,223	2,676	9
	43.02	31.09	25.81	0.09

(2) ヤングケアラーについて知ったきっかけ (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友達・知人から聞いた	その他
7,683	3,899	823	1,476	1,912	82	3,340	617	510
	50.75	10.71	19.21	24.89	1.07	43.47	8.03	6.64

※「該当者数」の 7,683 は、IIの4の(1)の設問において、「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」のいずれかに回答した人数。

5 自由記述

調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

(1) 子どもの声

看護や、世話をすることは必要なことだが、子供の夢等を狭くするものであるから、もし、ヤングケアラーの人が近くにいたら、少しでもその子の負担を減らしてあげる為、手伝ったりして、自分のやりたいことがしっかり出来る様にさせてあげたい。

ヤングケアラーの方々についてよく知らないから大それたことは言えません。でも、同じ年でそのような生活を送っている子供がいると思うと心が痛いです。

じぶんがやりたいこともやれないのはかわいそうだなと感じました。僕の周りで困っている人がいたら相談に乗りたいです。

やりたいことがあるのに出来ない、でも家族のためだから…などと、我慢する人が少しでも減ってくれたらいいなと思った。

ヤングケアラーは相手に思いやりがあるから世話をしているんだと思う。

ヤングケアラーの心のためにも支援は大切だと思う。

ヤングケアラーのことはネットで知りました。ある中学生くらいの人が投稿していたので、私と同じ年なのに、こんなに重い役目があって自由もなく学校もいけてない、そんな環境下にいる子がいると知って、やっぱりヤングケアラーについてもっと知ってもらうことが大事なんだと思う。

(2) 話を聞いてほしい、理解してほしい

定期的にヤングケアラーに関するアンケートなどを行い、困っている人がすぐわかるようにすると、ヤングケアラーを減らす第一歩になると思う。

一人で、悩まないように相談しやすいアンケートを実施することが必要だと思う。

相談に乗ってほしい。

見た目だけでなく、その子の気持ちに気づいてあげてほしい。

(3) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり、子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

ヤングケアラーの人たちが誰かに相談したり、話したりする環境整備が必要だと思います。インターネットが普及している今だからこそ、たくさんの人に知ってもらえるきかひがあるとおもうので、インターネットを使って支援の幅が広がればいいなと思いました。

ヤングケアラーは一人で困ることが多いと思うので、ヤングケアラーということを周りに伝えやすい環境を作ることが大切だと思います。

相談員などを増やし、気軽に相談できる環境を作ったらいいと思う。

<p>ヤングケアラーに関する情報が、学校から配布されるプリントやニュースなどにより、少しずつわかってきましたが、それがそもそもヤングケアラーの支援になっているとは、言い切れないとおもいます。家族の介護などで、学校を休みがちになると、「学校をサボっている」と思われることも少なくないとおもうからです。そうすると、その人も人に言いにくくなって、もっと負担がたまってしまおうと思います。だから、万が一、ヤングケアラーになった場合はみんなに知ってもらうとか、知ってほしくない場合は、陰でそっと見守り、秘密をもらさないといい、その人の心のケアを最優先にするべきだとおもいます。また、私たちもそのことを騒ぐことなく、そっと見守ってあげたいです。</p>
<p>本当に支援を必要としている人に、難しいことかもしれないけれどみんなで手を取り合って相談を真剣にのったり、聞く耳を持つということが必要だと思いました。</p>
<p>相談したくても相談できない人がいると思うので、気軽に相談できる場所があることをわかりやすく示す方法を考えたほうがいいと思いました。</p>
<p>表は笑顔でいるだけで裏でつらい経験をしているかもしれないから、少しでも違和感を感じたら相談に乗ってあげることが大事だと思う。</p>
<p>ヤングケアラーがいっぱいになって病んでしまったりしたら、元も子もないので心のケアがだいじだと思います。</p>
<p>まずは友達などがヤングケアラーで悩んでいないか、相談に乗ることも大切だと思った。</p>
<p>知らないでほしいこともあると思う。だから、ゆっくりと時間をかけてカウンセリングする必要があると思う。</p>

(4) 周囲の大人の理解や寄り添い

<p>不自由なく暮らせるように支援をすることが必要であると思います。一人で家族を支えることはかなり厳しいと思うので、ヤングケアラーのことを理解した上で、周りの人たちで支える必要があると思いました。</p>
<p>大人の代わりにこういうことをしている子供をあの家はそういうものと考えてのではなく、「あっ支援しないといけないな。」と考え、みんなが暮らしていけばよいと思う。</p>
<p>大人に相談せず一人で抱え込んでいる子も多いと思います。なのでそういう子一人一人にしっかり寄り添ってあげることが大切だと思います。</p>
<p>まずはヤングケアラーの人を見つける必要があると思う。自分がヤングケアラーだと知らずに介護をしている可能性があるから。</p>
<p>周りの人が本人の異変（体調、友達関係）に気づいてあげることが大切だと思う。</p>
<p>ヤングケアラーになっっている人を知っている人がこえをあげる。</p>
<p>普段の日常生活などで見かけた時、積極的に声をかけたりして取り組むことが必要。見ているのではなく、自分から声をかけるということに取り組むことが必要。</p>

(5) ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと

インターネットや学校で配布される手紙、回覧板などを通して、最初の私のようにヤングケアラーを知らない人たちにヤングケアラーがどういう人たちのことで、どのような取り組みが必要なのかを知ってもらおう。そして今よりももっとヤングケアラーを知ってる人が増えてくれたらうれしい。そしてその人たちに支援をしてくれるように呼び掛ける。自分も前はヤングケアラーについて知らなかったけど、小さくても少しでも支援をしたいと思っている。

世の中には自分のように、ヤングケアラーについて聞いたことはあるがよく知らない人がいるので、詳しく知るためのチラシなどを配ってより多くの人に知ってもらおう方がいいと思う。また、子供たちはヤングケアラーのことをよくしらずに相談できないということもあると思うので、そこも気を付けていくことが必要だと思いました。

ヤングケアラーについて知ってもらうためにニュースに取り上げたり、新聞で支援の呼びかけをすることが必要。ヤングケアラーがどのような生活を送っているのかをなるべく多くの人に知ってもらい、ヤングケアラーの負担が少ない世の中にするための課題を掲げる。

まずは、ヤングケアラーの実態などについて多くの人に知ってもらう必要があると思う。政府や大きな団体の支援だけではなく、一般の人の認知度や理解度を高めることで、対応や支援の方法、幅が広がるなどできることが増えると思う。

少しでもテレビや新聞、SNSなどのたくさんの人が目にしやすいメディアを使って、ヤングケアラー自体を知ってもらえるようにすることが必要だと思う。

(6) その他支援の充実等

病院や老人ホームなどに通わせることができない場合は、政府や自治体で支援をすればいいと思います。家族（兄弟など）の世話をしている場合は、その親が働いている会社に事情を説明したりするなど、働きかけるべきだと思います。

家計を支えるために労働をしている人たちには援助が必要だと思う。家族の代わりに小さい子供を世話をしている人たちにはそのような人たちが集まって保育できる場所が必要だと思う。家族に代わり、家事をしている人たちには定期的に来てくれる家政婦さんのような人が必要だと思う。

支援の情報を子供でも分かりやすいように（学校などで手紙を配布するなど）をしたほうが良いと思います。また、ヤングケアラーに該当しなくても家族等が障がい者で悩んでいる人もいると思うので、その人たちにも支援を広げるべきなのかな、とも思いました。

国や市が、家事代行サービス、訪問型介護のようなもの、老人ホームの利用、ベビーシッターなどの制度を税金を利用することで、ヤングケアラーの人たちが無償でそのようなサービスを受けられるようにし、子供自身がやりたいことをできる環境づくりが重要。

家族の世話で学校にいけない子供がいると聞いたから、家庭でも学習できる環境を作ってあげる事やヤングケアラーの周りの人たちが理解を深めて精神面でも学習面でも助けてあげる事が大切だと思いました。

ヤングケアラーにどのような支援をしていけばいいのかわからないので、私のような、よくわからない人や、助けを求められないヤングケアラーに、今できる支援にはどんな支援があるのか教えてほしい。

学校に行きたいけどいけない人を、オンラインで受けてもらったり、介護をしている人を学校に行くときに預かったりすることが必要だと思います。

ヤングケアラーの情報を伝えるだけでなく、さいたま市が何をしているか、しようとしているか教えてほしい。

(7) 学校におけるサポートや配慮

こどもは自分がヤングケアラーであったとしても、話すことができない人が多いと考えられるので、先生などがより早くSOSに気づき、寄り添っていくことが大切だと思う。

ヤングケアラーを知らない人がまだたくさんいると思うので、道徳や総合の授業でヤングケアラーに関連した内容を取り入れたらいいと思います。

ヤングケアラーのことをあまり学校では扱っていないので、くわしい内容を知るために授業をしてほしい。

学校で、ヤングケアラーについてこういう事実があるということをポスターを使ったり朝会などで話題として取り上げる。

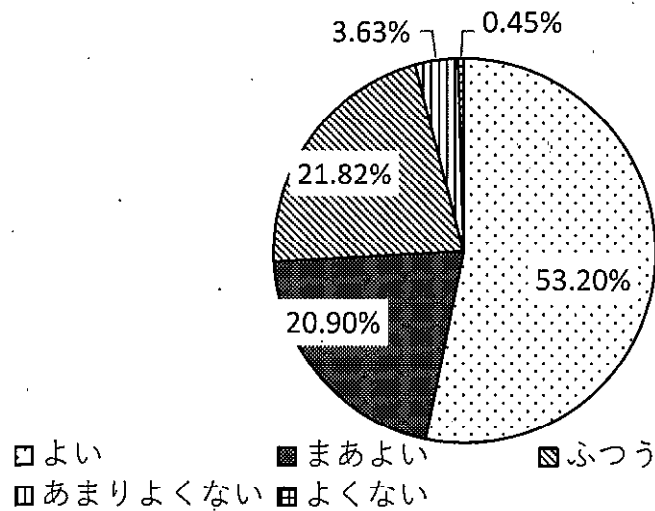
ヤングケアラーである状況について、自分の口で言うのは難しいと思うので市とか県が市民、県民の家庭状況をこのようなアンケートで把握して支援をすることが必要だと思います。ただ把握して先生が相談にのるだけではなくちゃんと支援してあげることが必要だと思います。

学校などで気軽に相談できるように、ヤングケアラーについてのアンケートを取り、ヤングケアラーに当てはまる、またはわからないと回答した人に一人ずつ話を聞き、学校側が各家庭の状況を理解し対応していくことが大切だと思う。

Ⅲ 市立中・中等教育学校生徒について（調査結果）

1 現在の健康状態について

(1) 健康状態

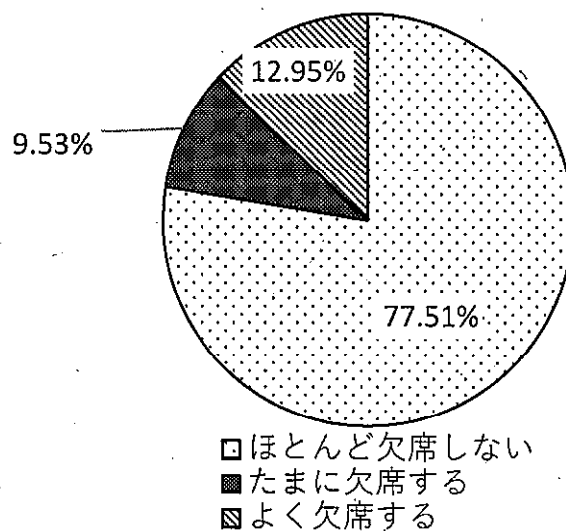


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
9,495	5,051	1,984	2,072	345	43
	53.2	20.9	21.82	3.63	0.45

2 ふだんの生活について

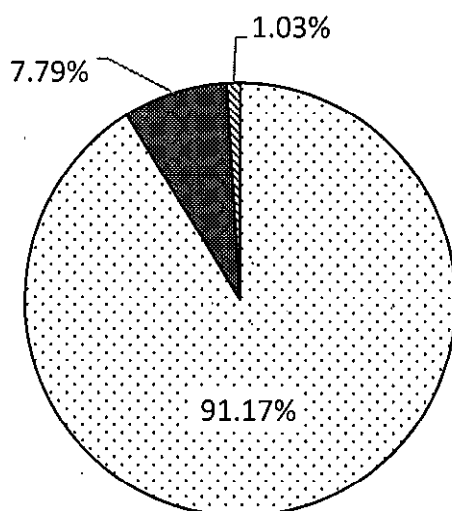
(1) 学校への通学状況：出席状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
9,495	7,360	905	1,230
	77.51	9.53	12.95

(2) 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

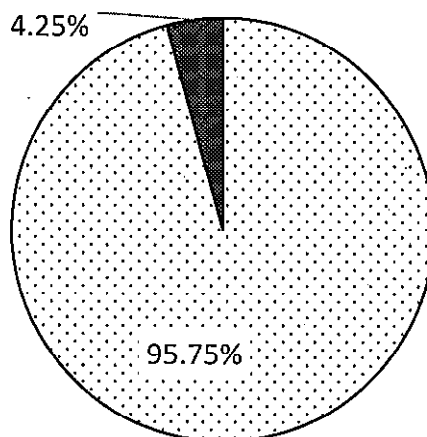


□ほとんどしない ■たまにする ▨よくする

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんどしない	たまにする	よくする
9,495	8,657	740	98
	91.17	7.79	1.03

(3) 部活動への参加状況

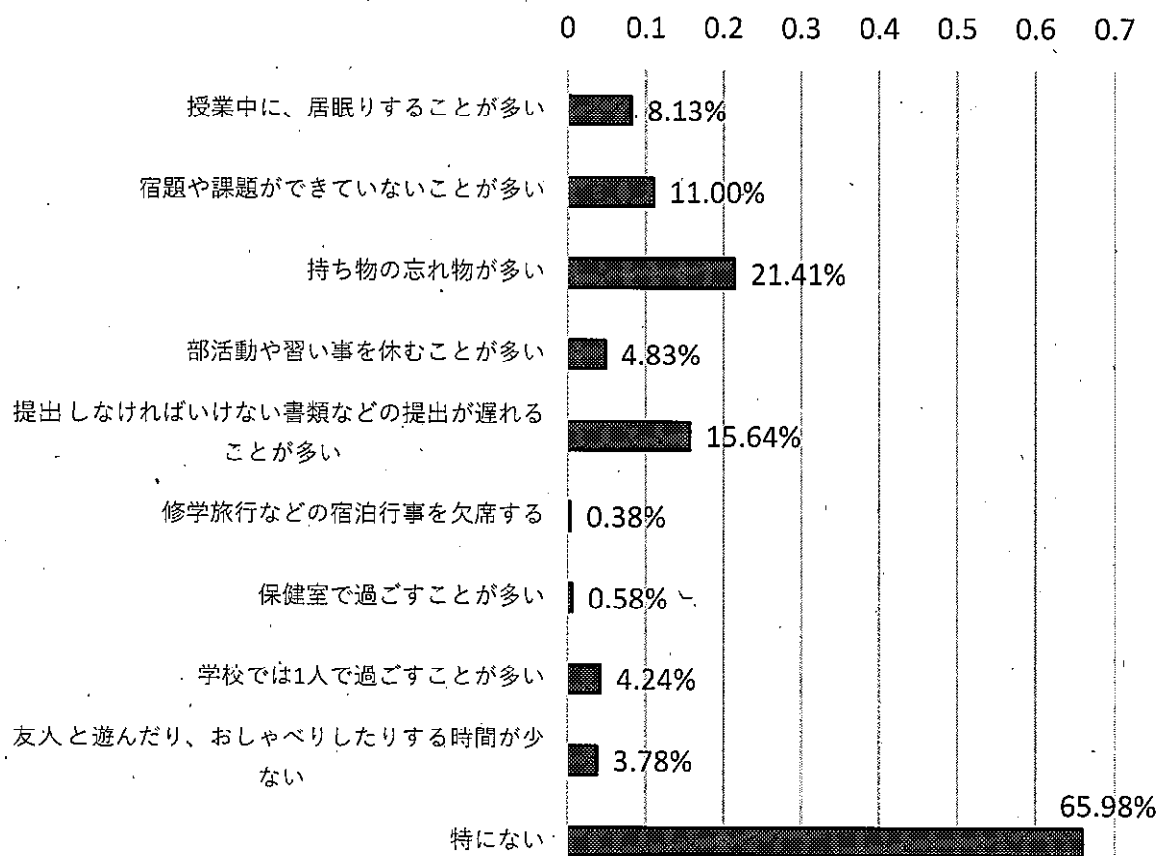


□参加している ■参加していない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	参加している	参加していない
9,495	9,091	404
	95.75	4.25

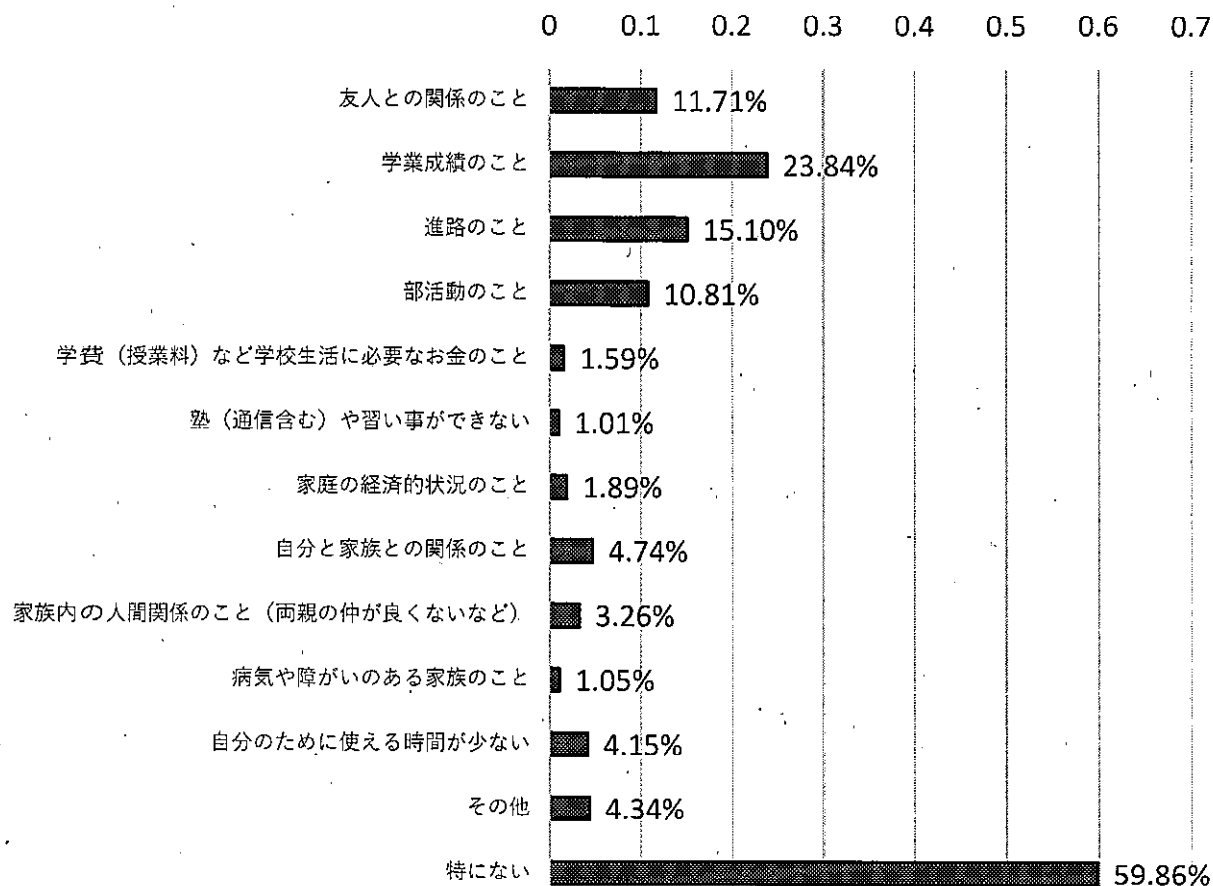
(4) ふだんの学校生活等であてはまること (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	授業中に、居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
9,495	772	1,044	2,033	459	1,485	36	55	403	359	6,265
	8.13	11	21.41	4.83	15.64	0.38	0.58	4.24	3.78	65.98

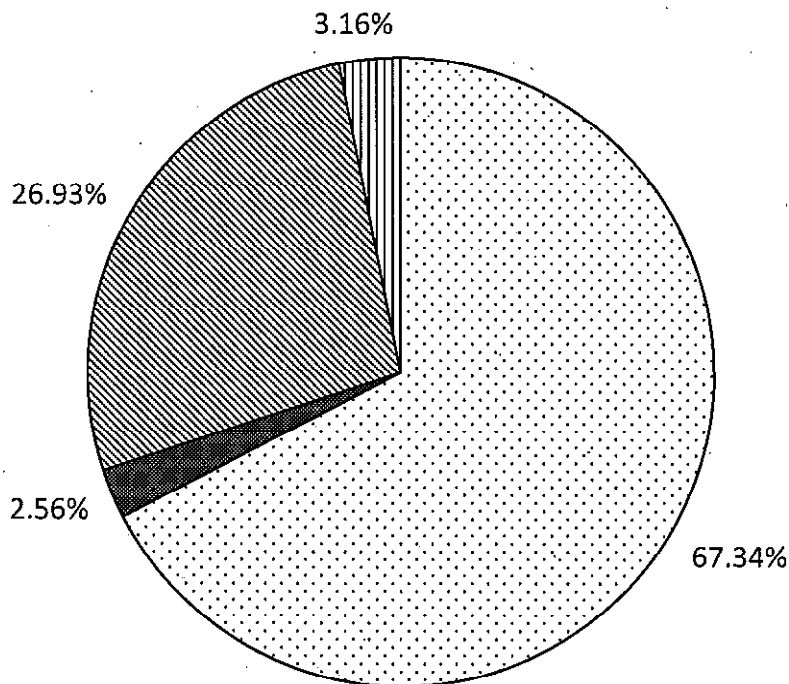
(5) 現在の悩みや困りごと (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費 (授業料) など学校生活に必要なお金のこと	塾 (通信含む) や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	の仲が良くないなど)	家族内の人間関係のこと (両親	病気や障がいのある家族のこと	い 自分のために使える時間が少ない	その他	特にない
9,495	1,112	2,264	1,434	1,026	151	96	179	450	310	100	394	412	5,684	
	11.71	23.84	15.1	10.81	1.59	1.01	1.89	4.74	3.26	1.05	4.15	4.34	59.86	

(6) 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無



- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- ▨ 相談や話はしたくない
- 無回答

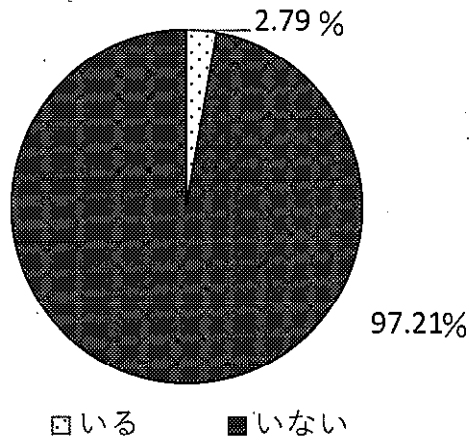
(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話はしたくない	無回答
3,984	2,683	102	1,073	126
	67.34	2.56	26.93	3.16

※「該当者数」の 3,984 は、Ⅲの2の(5)の現在の悩みや困りごと(複数回答)において、「特になし」とのみ回答した数を有効回答数 9,495 から除いたもの。

3 家庭や家族のことについて

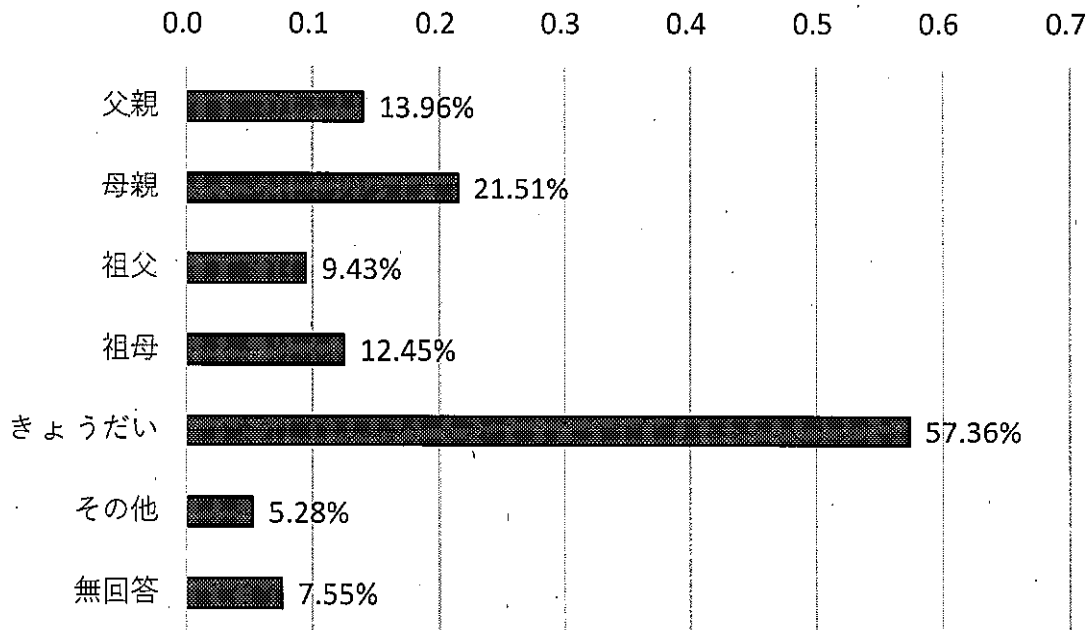
(1) 世話をしている家族の有無



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	いる	いない
9,495	265	9,230
	2.79	97.21

(2) 世話を必要としている家族 (複数回答)

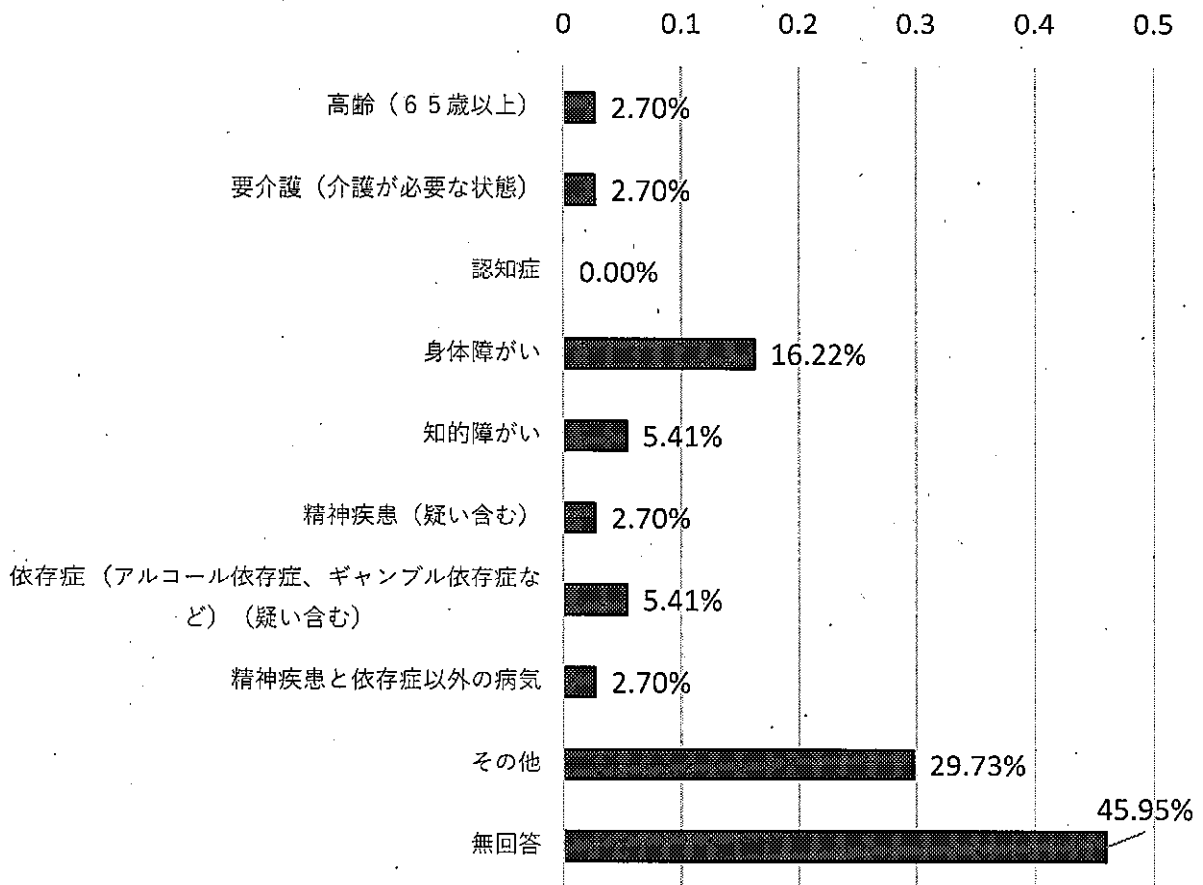


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	父親	母親	祖父	祖母	きょうだい	その他	無回答
265	37	57	25	33	152	14	20
	13.96	21.51	9.43	12.45	57.36	5.28	7.55

(3) 父親の状況、お世話の内容（複数回答）

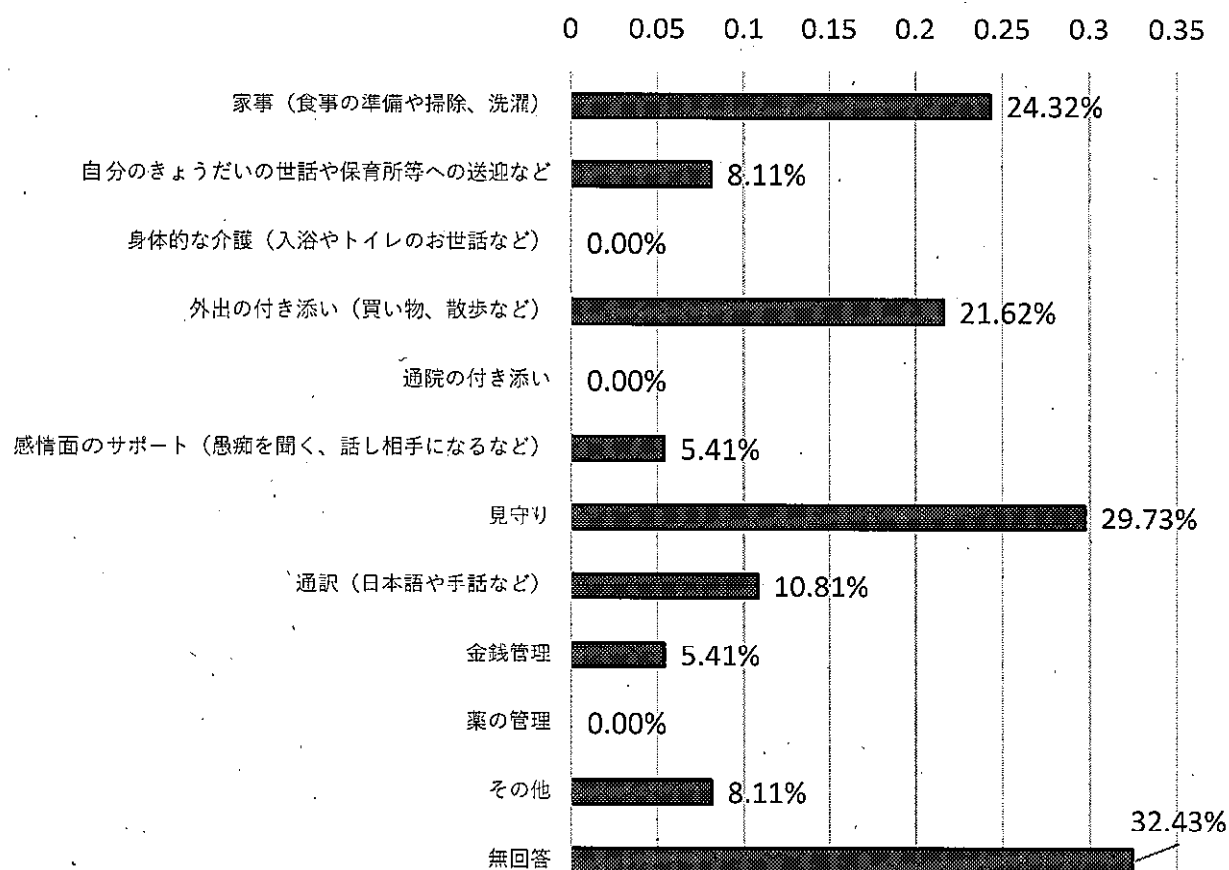
①状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢（65歳以上）	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患（疑い含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
37	1	1	0	6	2	1	2	1	11	17
	2.7	2.7	0	16.22	5.41	2.7	5.41	2.7	29.73	45.95

②世話の内容

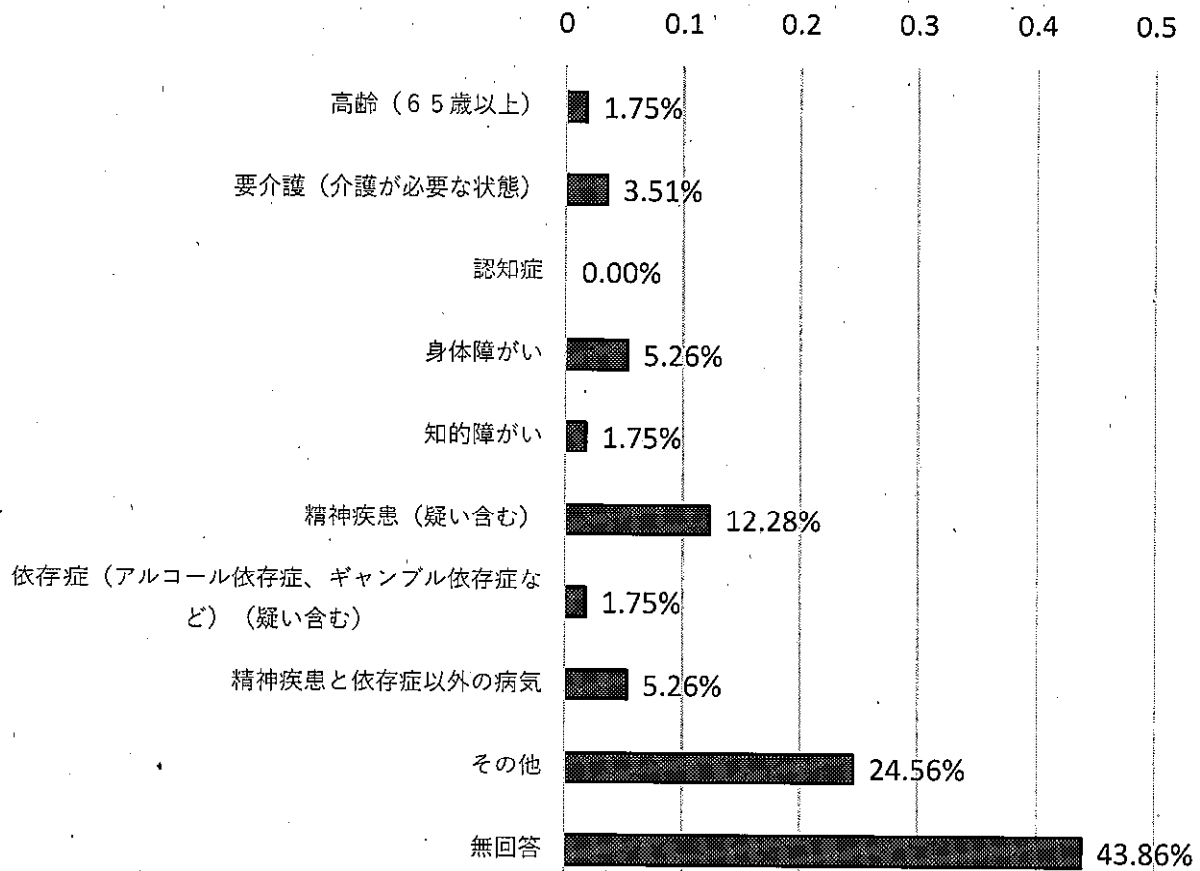


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	濯	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保育	のお世話など)	身体的な介護 (入浴やトイレ)	歩	外出の付き添い (買い物、散歩)	通院の付き添い	く、感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
37		9	3	0	8	0	2	11	4	2	0	3	12			
		24.32	8.11	0	21.62	0	5.41	29.73	10.81	5.41	0	8.11	32.43			

(4) 母親の状況、お世話の内容 (複数回答)

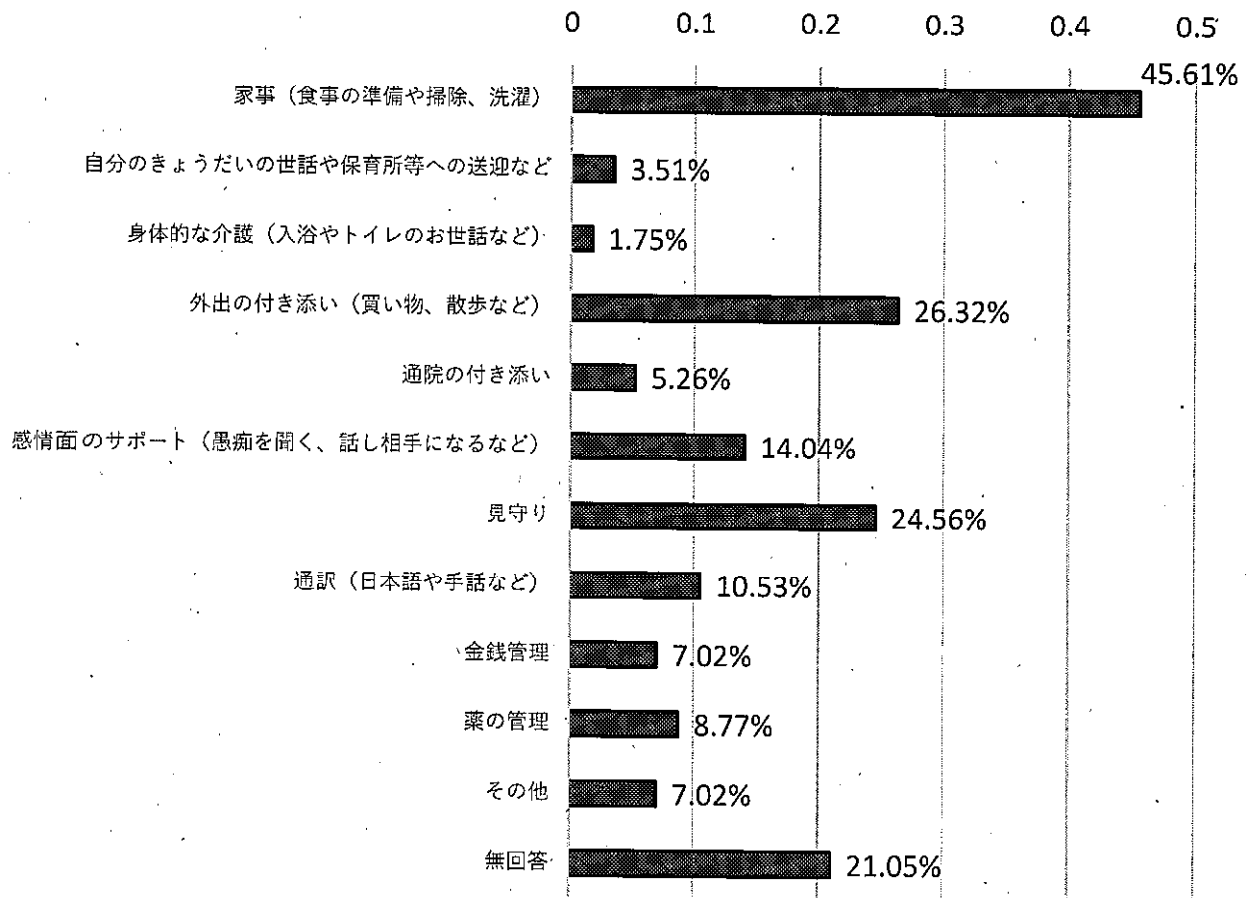
① 状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
57	1	2	0	3	1	7	1	3	14	25
	1.75	3.51	0	5.26	1.75	12.28	1.75	5.26	24.56	43.86

②世話の内容

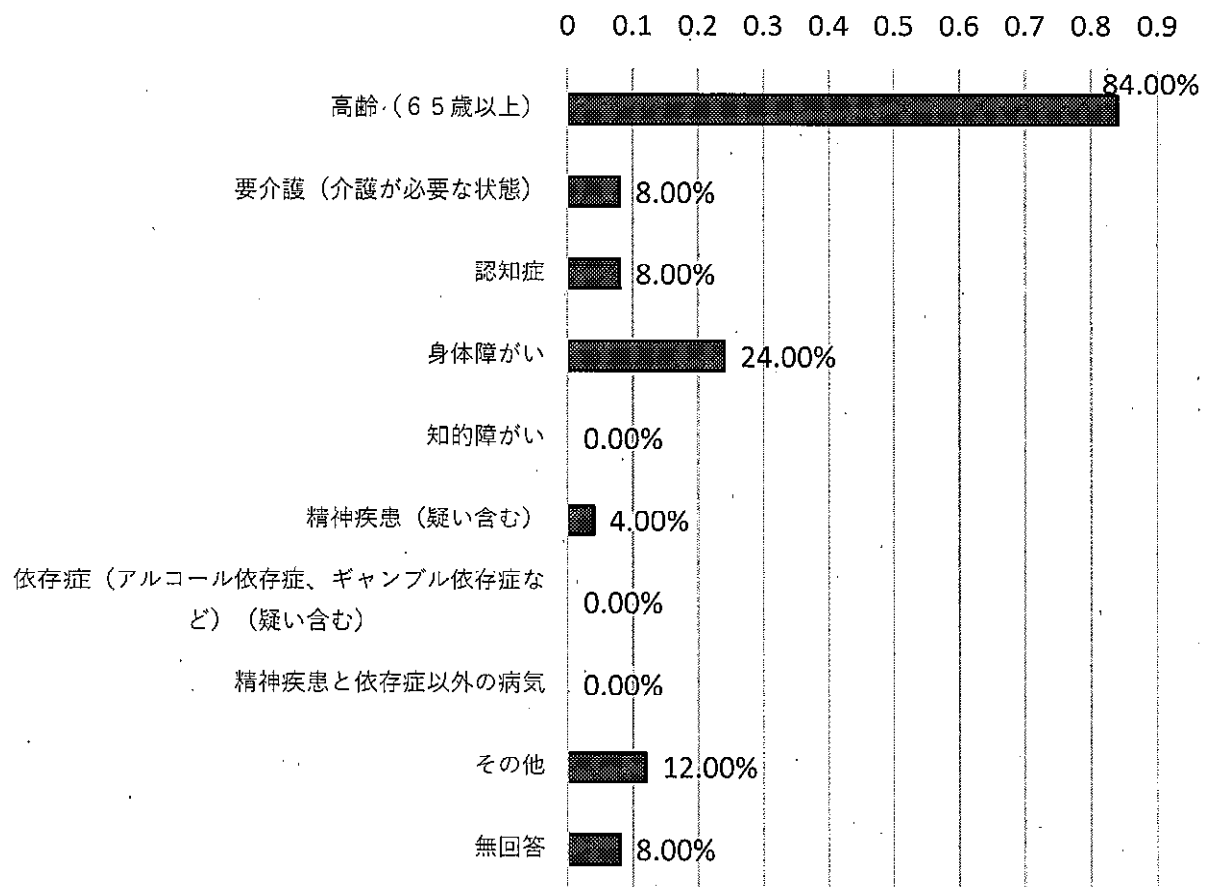


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	濯	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	保育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保	体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	歩	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	く、話し相手になるなど）	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
57		26	2	1	15	3	8	14	6	4	5	4	12			
		45.61	3.51	1.75	26.32	5.26	14.04	24.56	10.53	7.02	8.77	7.02	21.05			

(5) 祖父の状況、お世話の内容 (複数回答)

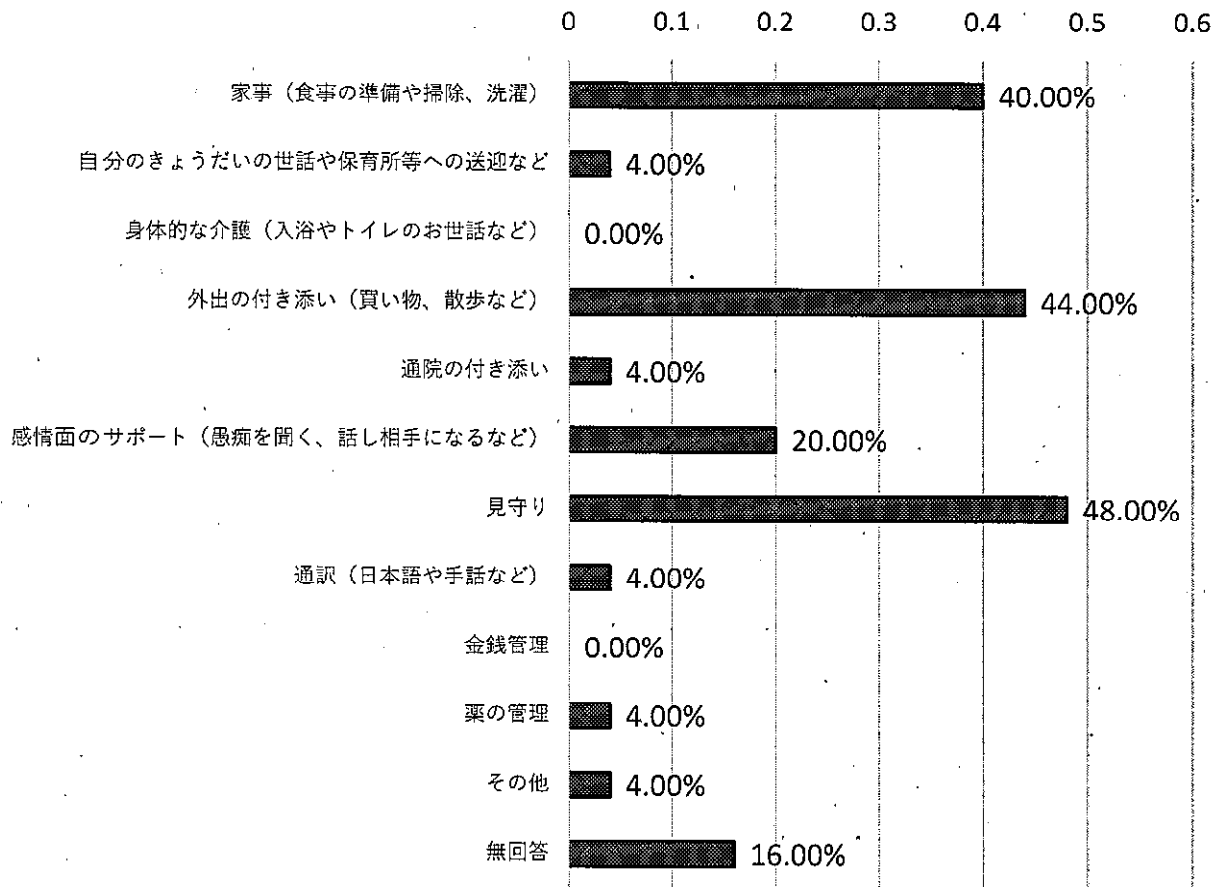
① 状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
25	21	2	2	6	0	1	0	0	3	2
	84	8	8	24	0	4	0	0	12	8

②世話の内容

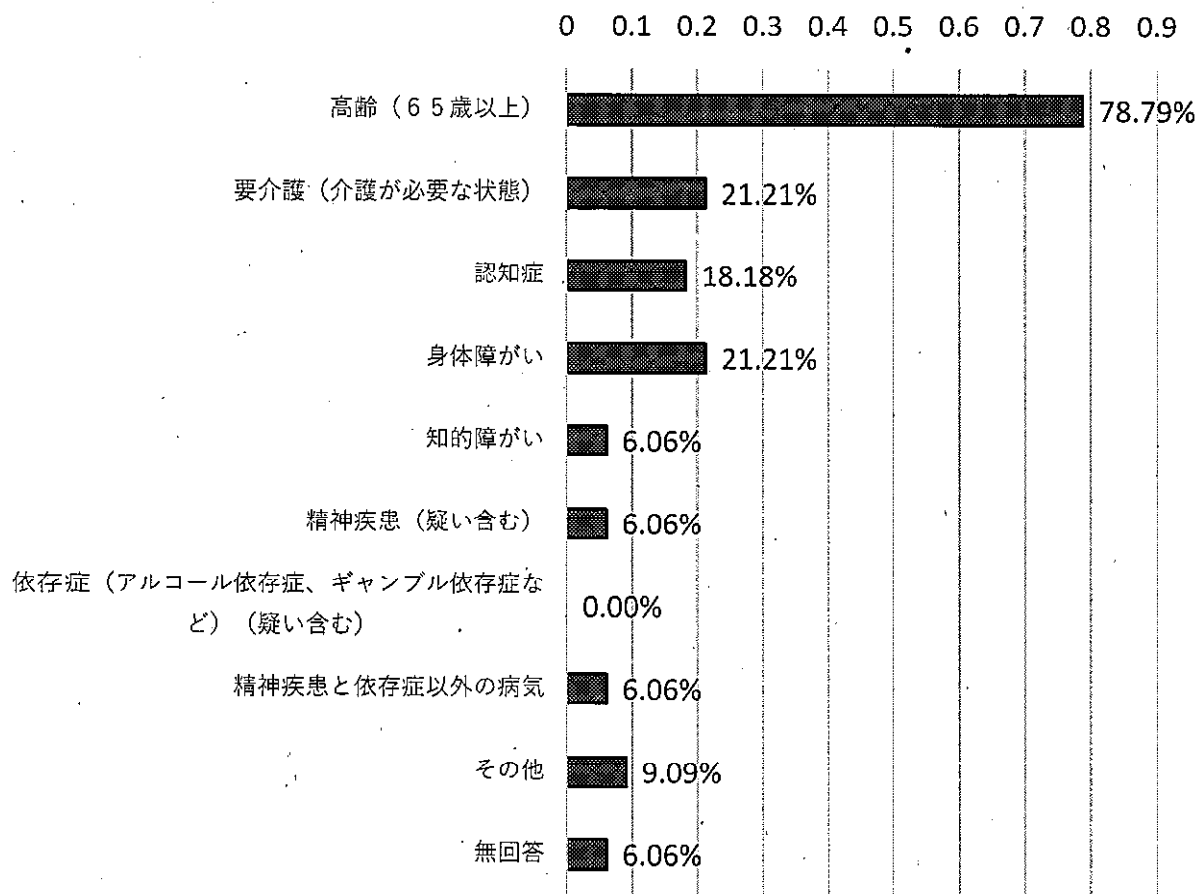


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	濯	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保育	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	歩などの	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	く、感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
25	10	1	0	11	1	5	12	1	0	1	4	0	1	1	4
	40	4	0	44	4	20	48	4	0	4	4	0	4	4	16

(6) 祖母の状況、お世話の内容 (複数回答)

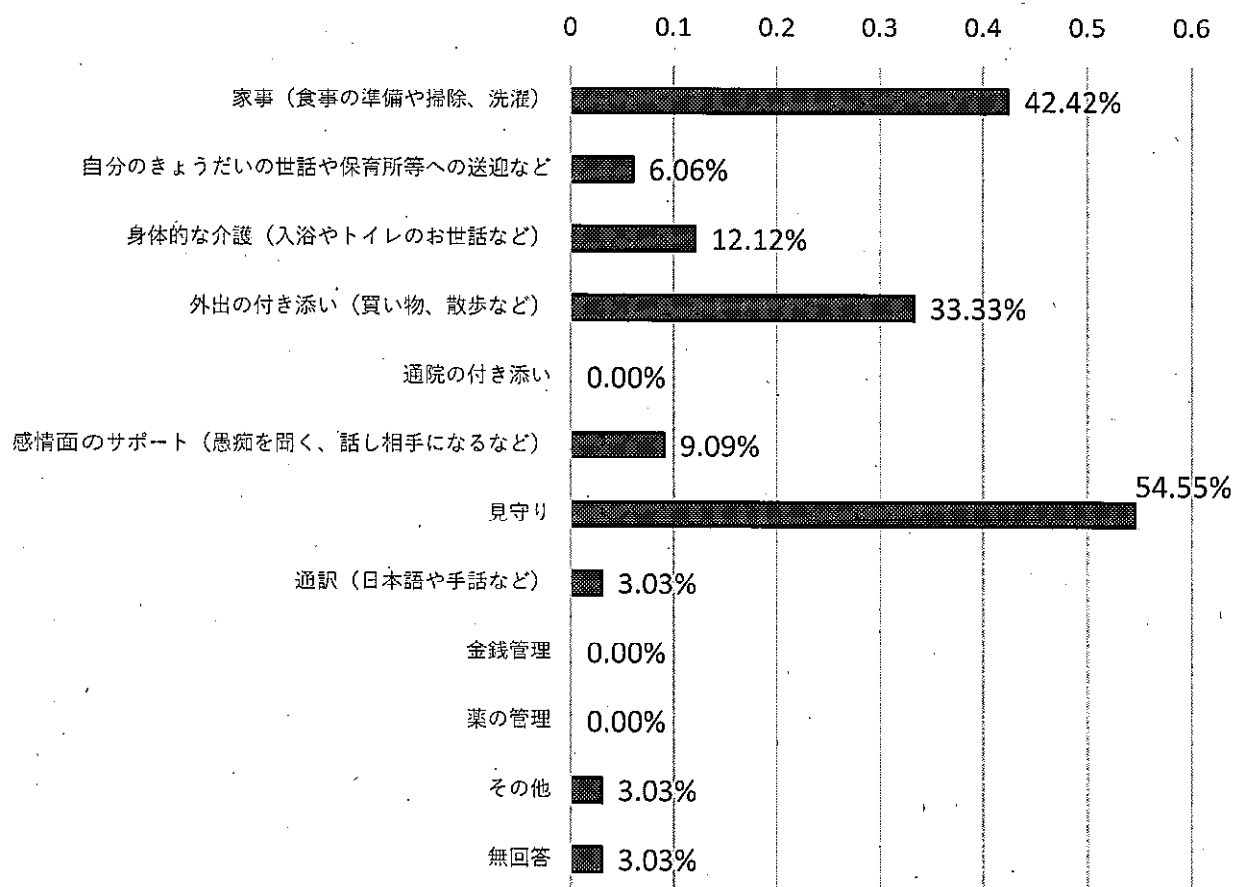
①状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
33	26	7	6	7	2	2	0	2	3	2
	78.79	21.21	18.18	21.21	6.06	6.06	0	6.06	9.09	6.06

②世話の内容

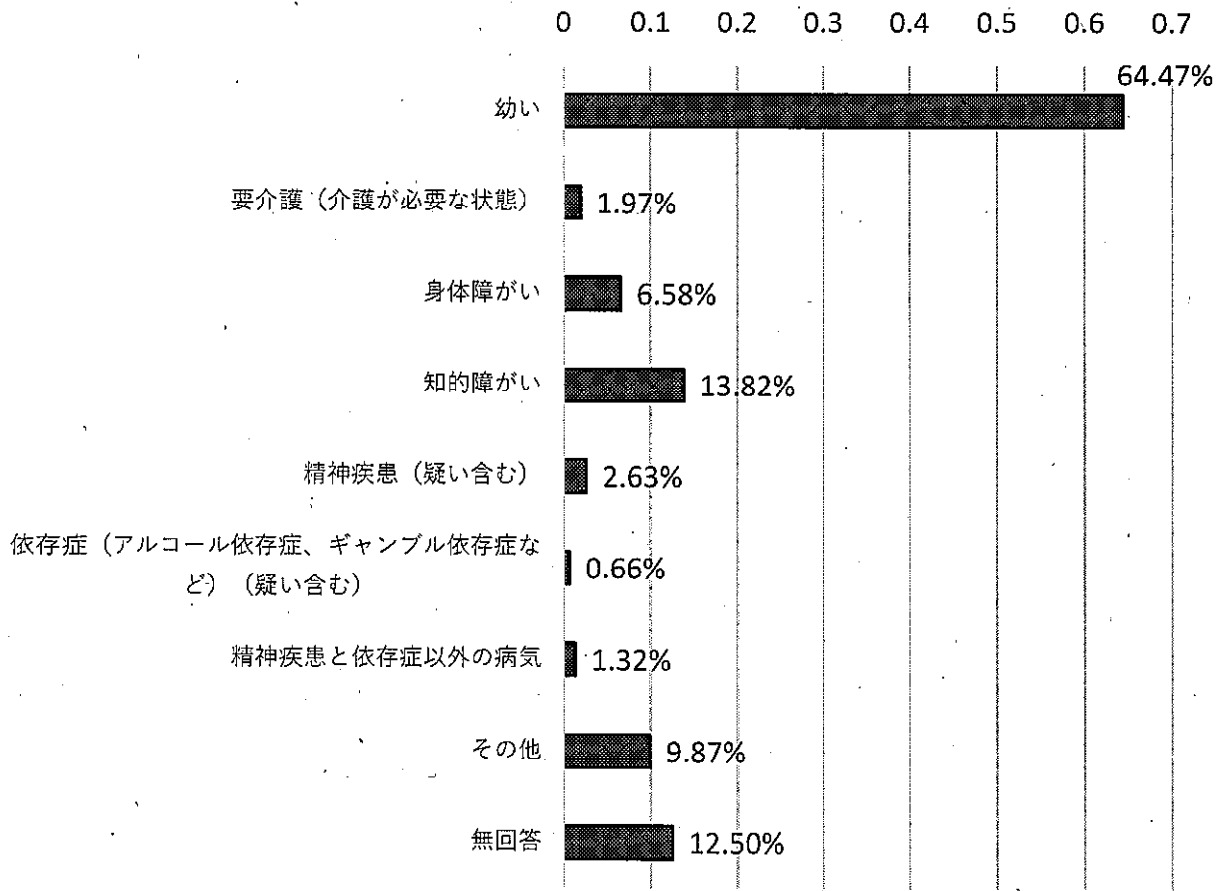


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	濯	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	歩など	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	く、話し相手になるなど	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
33		14	2	4	11	0	3	18	1	0	0	0	0	0	1	1
		42.42	6.06	12.12	33.33	0	9.09	54.55	3.03	0	0	0	0	3.03	3.03	

(7) きょうだいの状況、お世話の内容 (複数回答)

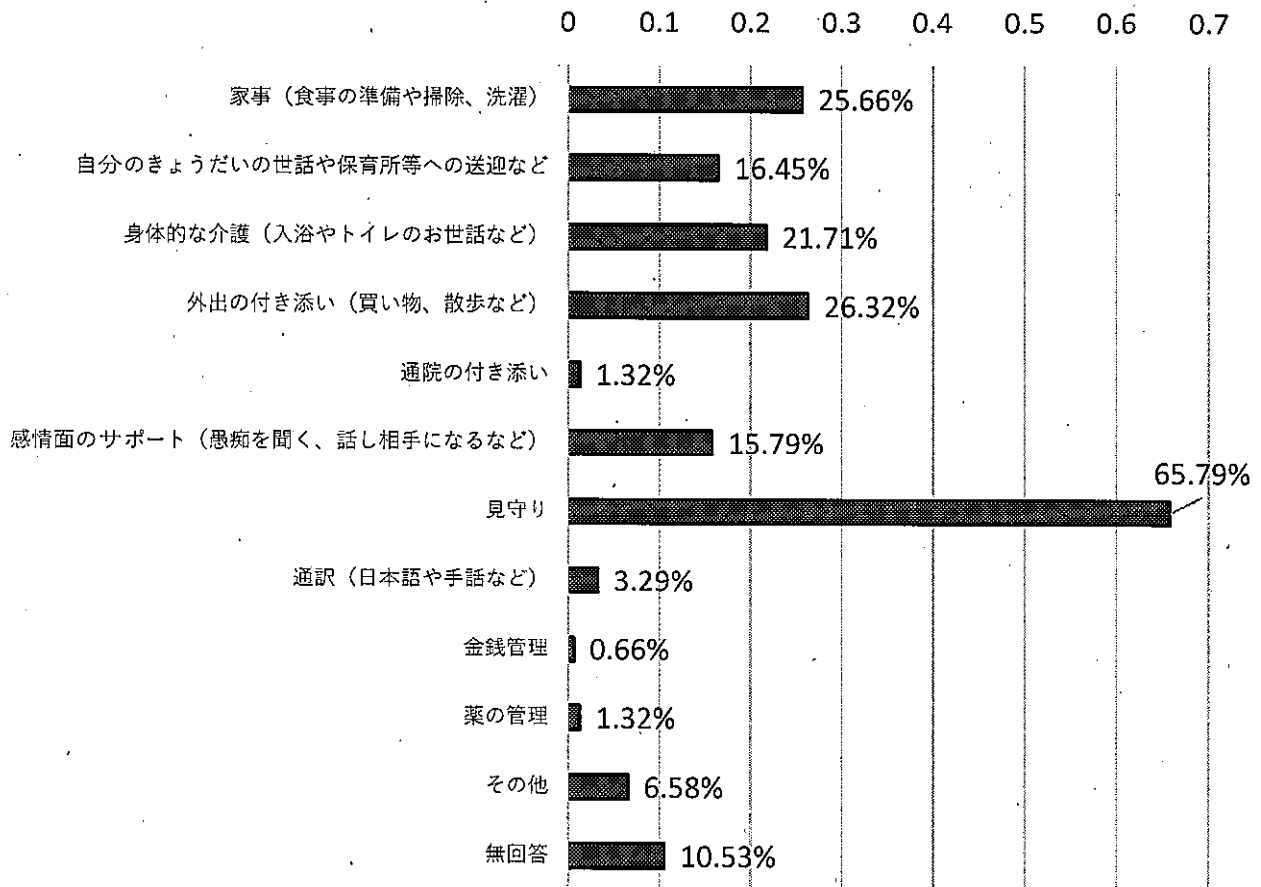
①状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	若い	要介護 (介護が必要な状態)	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
152	98	3	10	21	4	1	2	15	19
	64.47	1.97	6.58	13.82	2.63	0.66	1.32	9.87	12.5

②お世話の内容

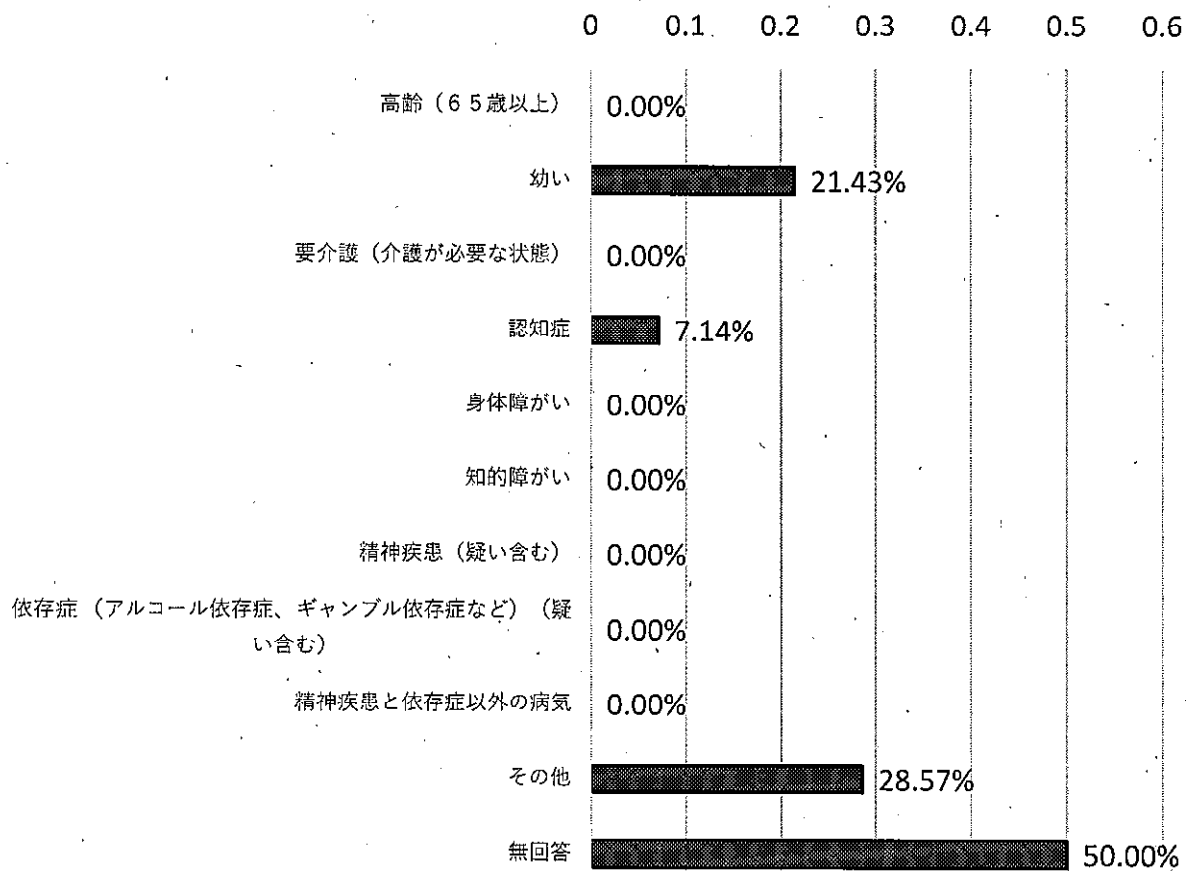


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者	濯	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保育	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	歩などの	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	く、感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
152	39	25	33	40	2	24	100	5	1	2	10	16			
	25.66	16.45	21.71	26.32	1.32	15.79	65.79	3.29	0.66	1.32	6.58	10.53			

(8) 「その他」の人の状況、お世話の内容 (複数回答)

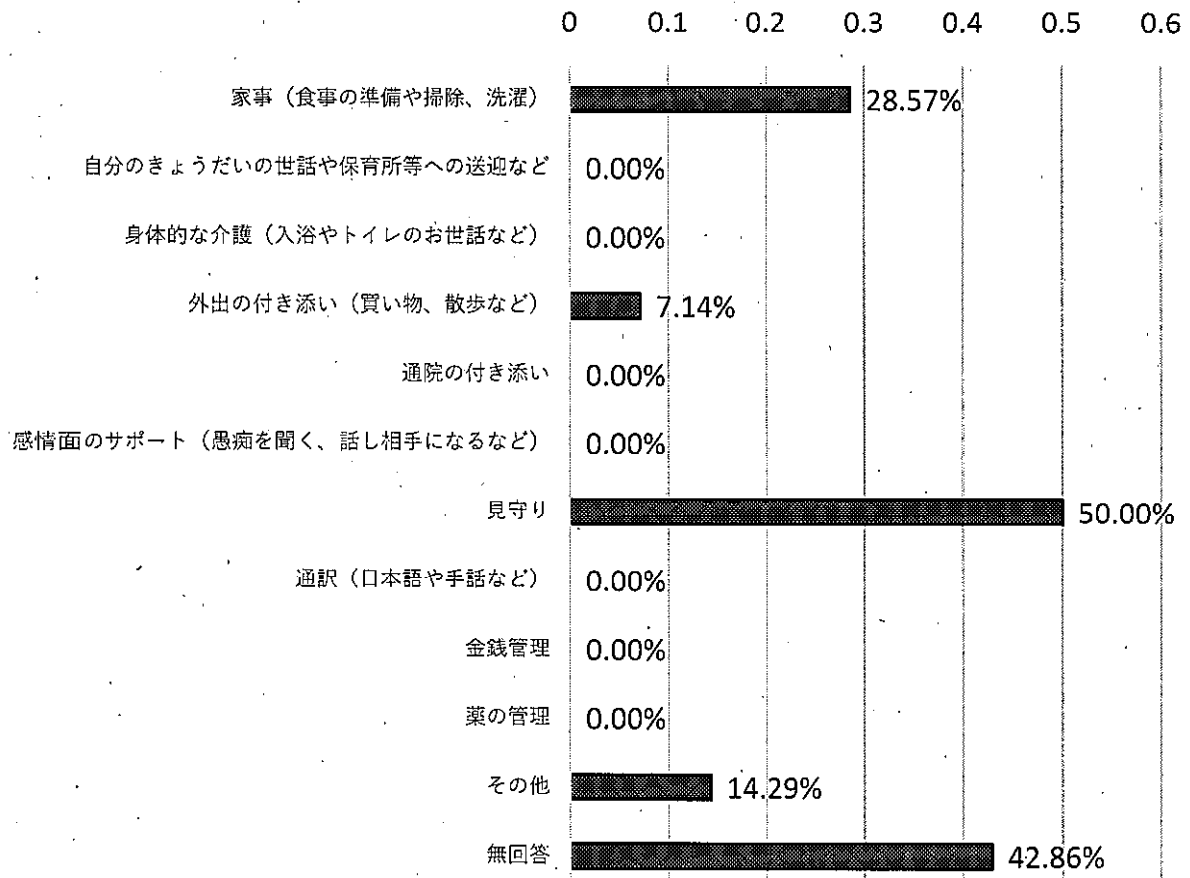
①状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患と依存症以外の病気	その他	無回答
14	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4	7
	0	21.43	0	7.14	0	0	0	0	0	28.57	50

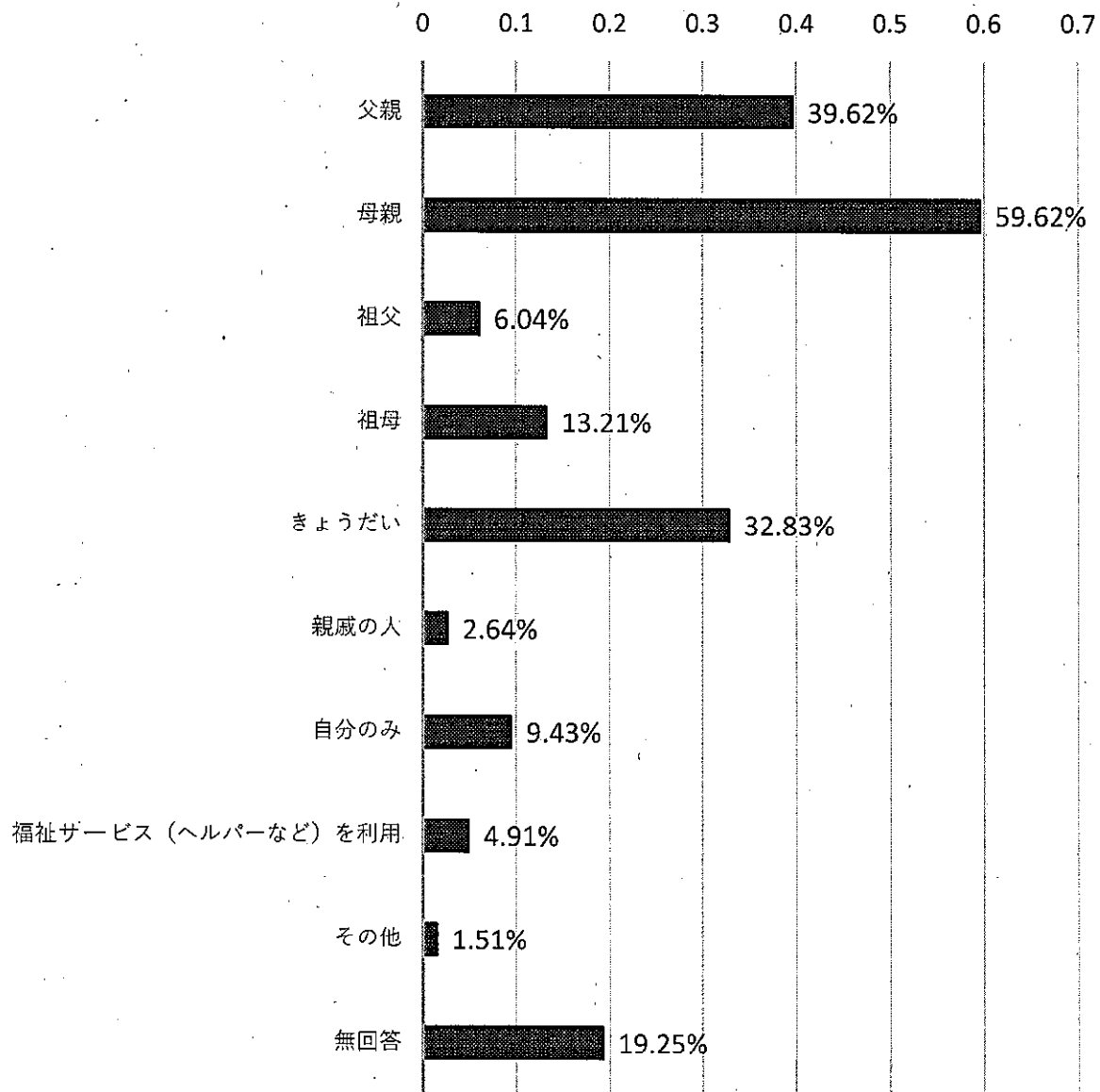
②お世話の内容



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者	濯	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	保育所等への送迎など	自分のきょうだいの世話や保	のお世話など)	身体的な介護 (入浴やトイレ	歩	外出の付き添い (買い物、散	歩	通院の付き添い	く、話し相手になるなど)	感情面のサポート (愚痴を聞	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
14	4	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
	28.57	0	0	7.14	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.29	42.86

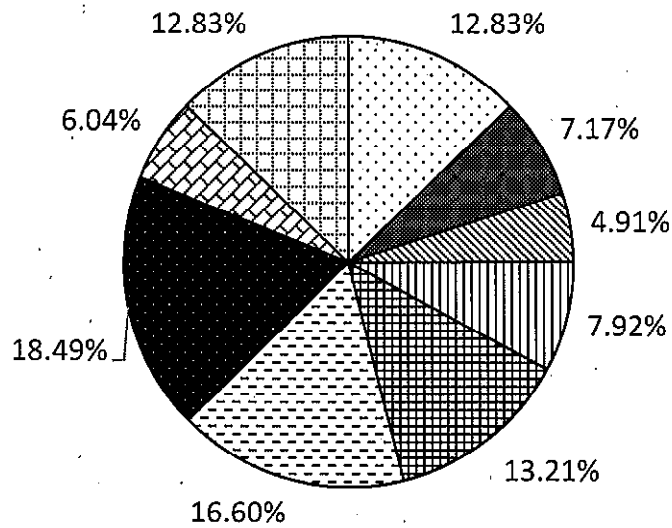
(9) 世話を一緒にしている人 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	父親	母親	祖父	祖母	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
265	105	158	16	35	87	7	25	13	4	51
	39.62	59.62	6.04	13.21	32.83	2.64	9.43	4.91	1.51	19.25

(10) 世話を始めた年齢

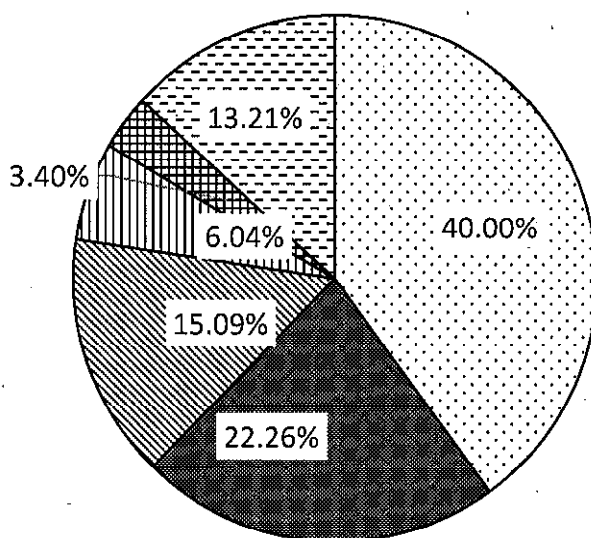


- 小学校入学前 (～6才頃) から
- 小学校1年生 (7才頃) から
- ▨ 小学校2年生 (8才頃) から
- ▩ 小学校3年生 (9才頃) から
- ▧ 小学校4年生 (10才頃) から
- ▦ 小学校5年生 (11才頃) から
- 小学校6年生 (12才頃) から
- ▤ 中学校1年生 (13才頃) から
- 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	小学校入学前 (～6才頃) から	小学校1年生 (7才頃) から	小学校2年生 (8才頃) から	小学校3年生 (9才頃) から	小学校4年生 (10才頃) から	小学校5年生 (11才頃) から	小学校6年生 (12才頃) から	中学校1年生 (13才頃) から	無回答
265	34	19	13	21	35	44	49	16	34
	12.83	7.17	4.91	7.92	13.21	16.6	18.49	6.04	12.83

(11) 世話をしている頻度

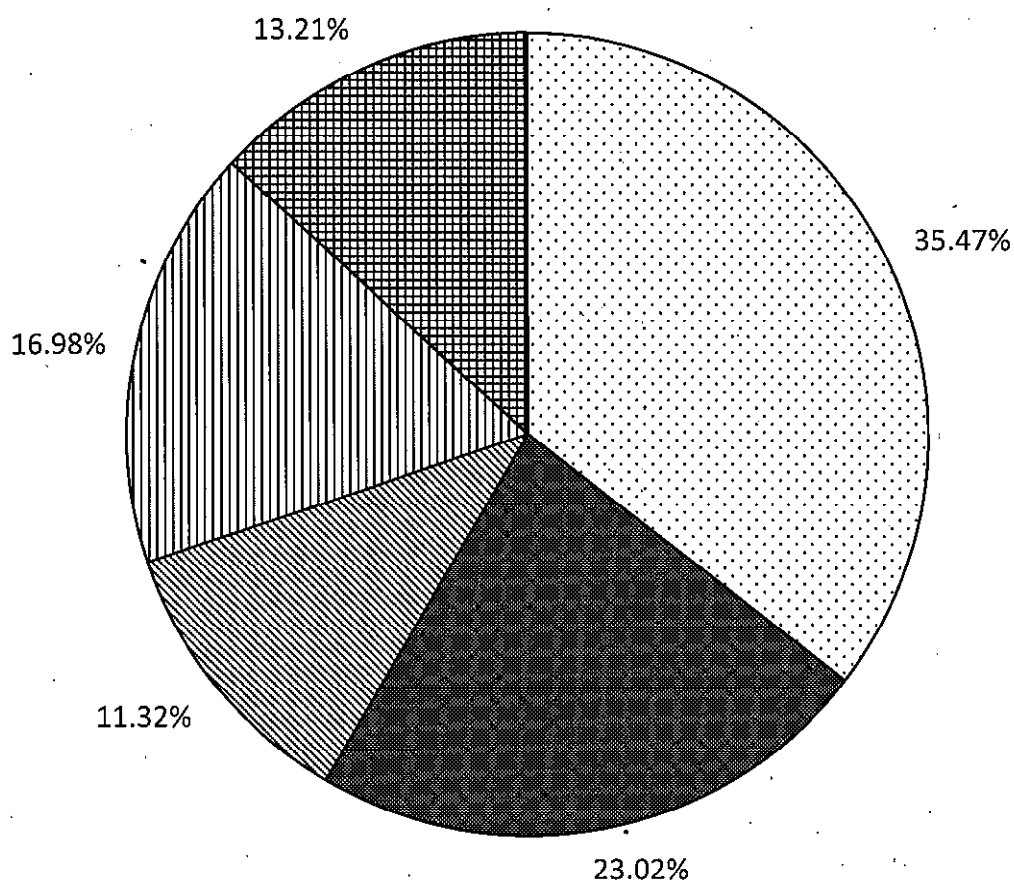


□ほぼ毎日 ■週に3~5日 ▨週に1~2日 ▩1か月に数日 ▤その他 □無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	無回答
265	106	59	40	16	9	35
	40	22.26	15.09	6.04	3.4	13.21

(12) 平日1日あたりに世話に費やす時間

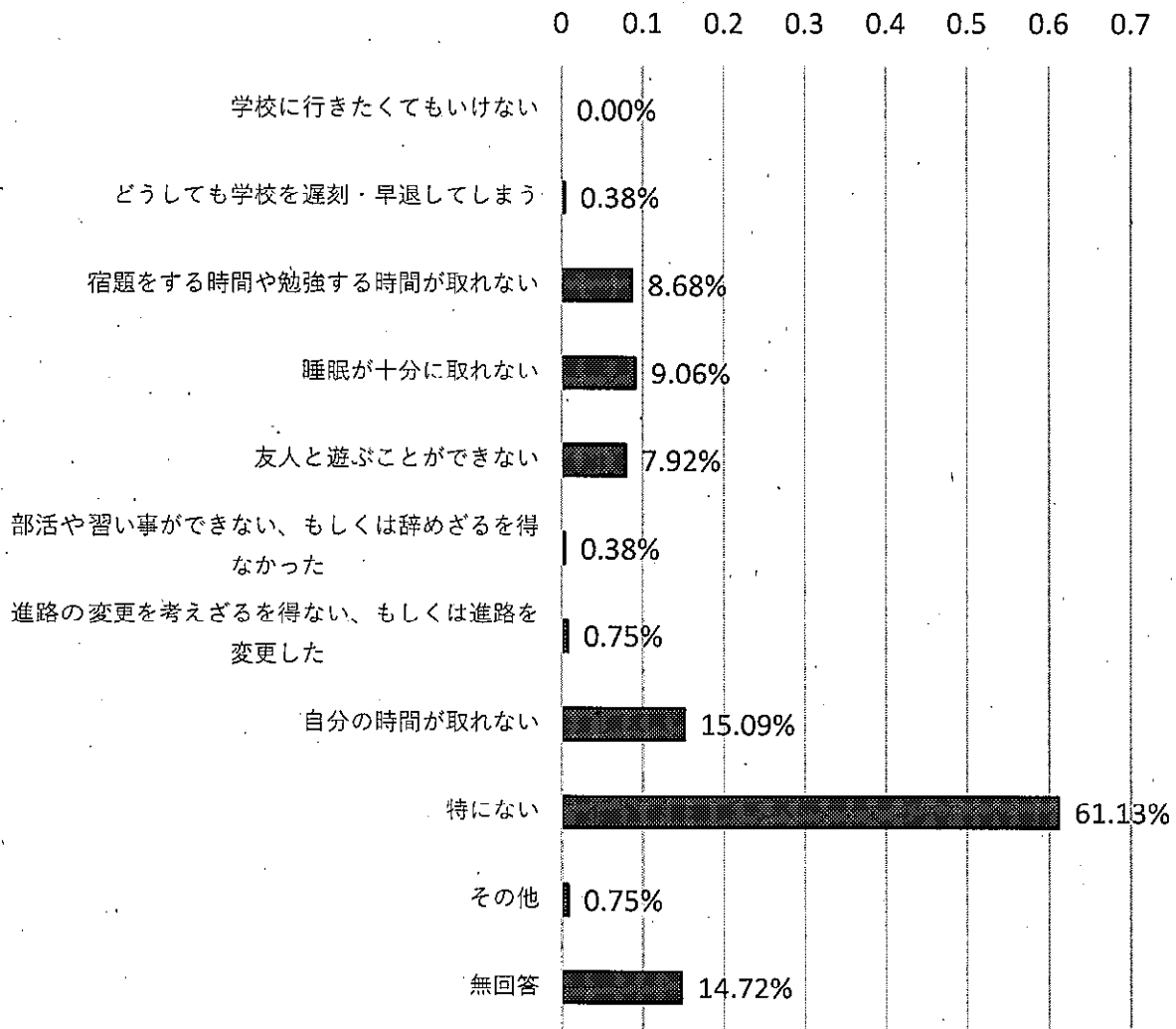


- 1時間未満
- 1時間以上～2時間未満
- ▨ 2時間以上～3時間未満
- ▩ 3時間以上
- 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上	無回答
265	94	61	30	45	35
	35.47	23.02	11.32	16.98	13.21

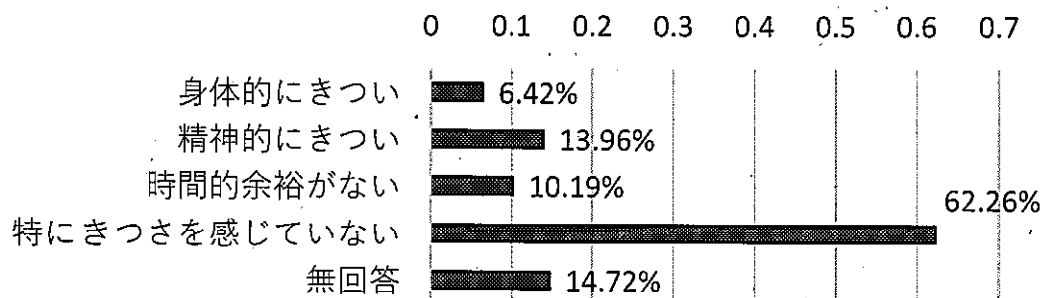
(13) 世話をしていることで、やりたいけれどできていないこと (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	学校に行きたくてもいけない	刻・早退しても学校を遅	どうしても学校を遅	宿題をする時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	特になし	その他	無回答
265	0	1	23	24	21	1	2	40	162	2	39	
	0	0.38	8.68	9.06	7.92	0.38	0.75	15.09	61.13	0.75	14.72	

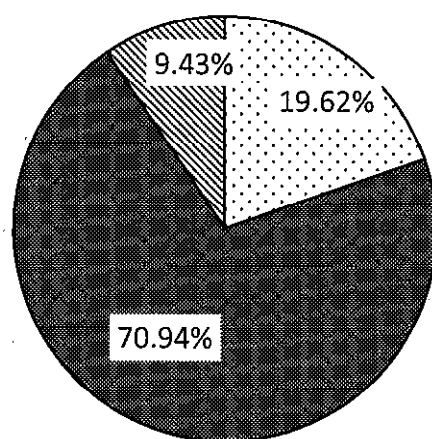
(14) 世話のきつさ (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさを感じていない	無回答
265	17	37	27	165	39
	6.42	13.96	10.19	62.26	14.72

(15) 世話について相談した経験

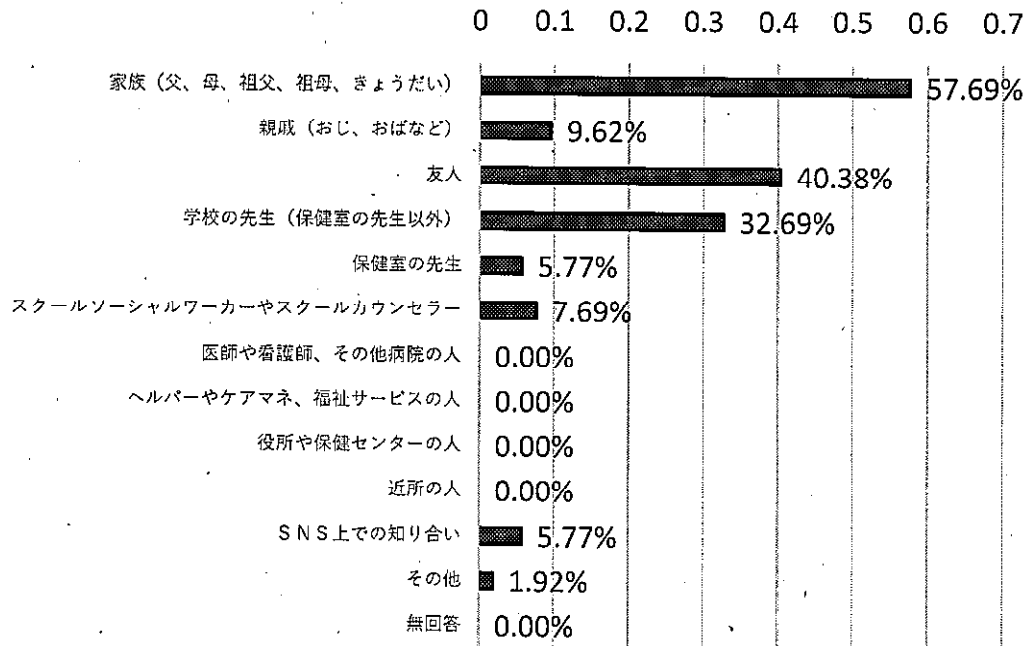


□ある ■ない ▨無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ある	ない	無回答
265	52	188	25
	19.62	70.94	9.43

(16) 世話についての相談相手（複数回答）

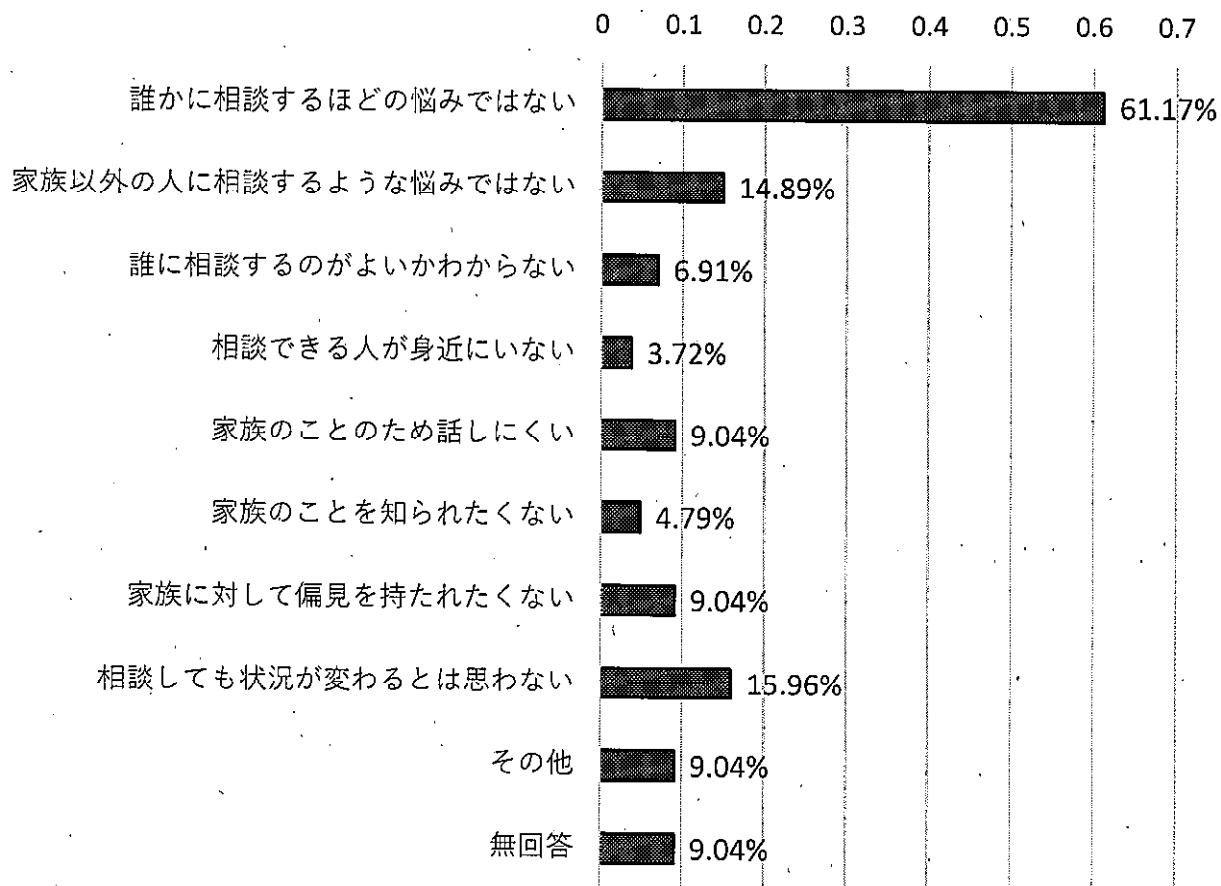


（単位 上段：人 下段：割合%）

該当者数	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人
52	30	5	21	17	3	4	0
	57.69	9.62	40.38	32.69	5.77	7.69	0

該当者数	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
52	0	0	0	3	1	0
	0	0	0	5.77	1.92	0

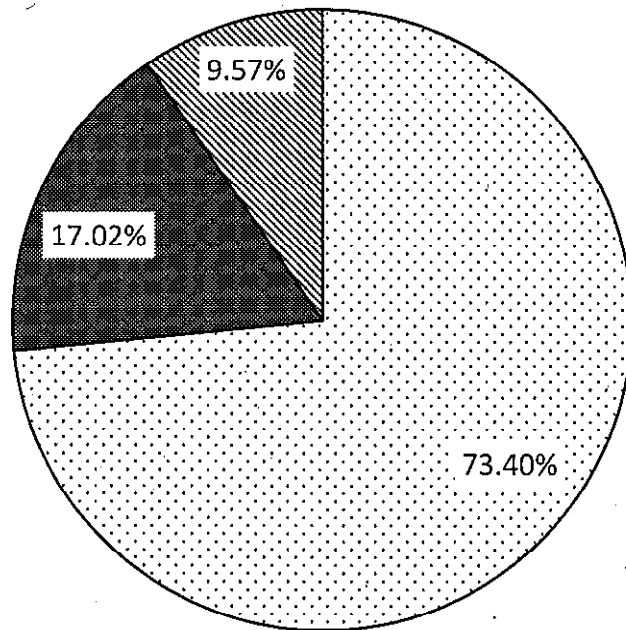
(17) 世話について相談していない理由 (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	誰かに相談するほどの悩み	家族以外の人に相談するよ	かからない	誰に相談するのがよいかわ	い相談できる人が身近にいな	い家族のここのため話しにく	い家族のここのため知られたくな	た家族に対して偏見を持たれ	は相談しても状況が変わると	その他	無回答
188	115	28	13	7	17	9	17	30	17	17	
	61.17	14.89	6.91	3.72	9.04	4.79	9.04	15.96	9.04	9.04	

(18) 世話について話を聞いてくれる人の有無

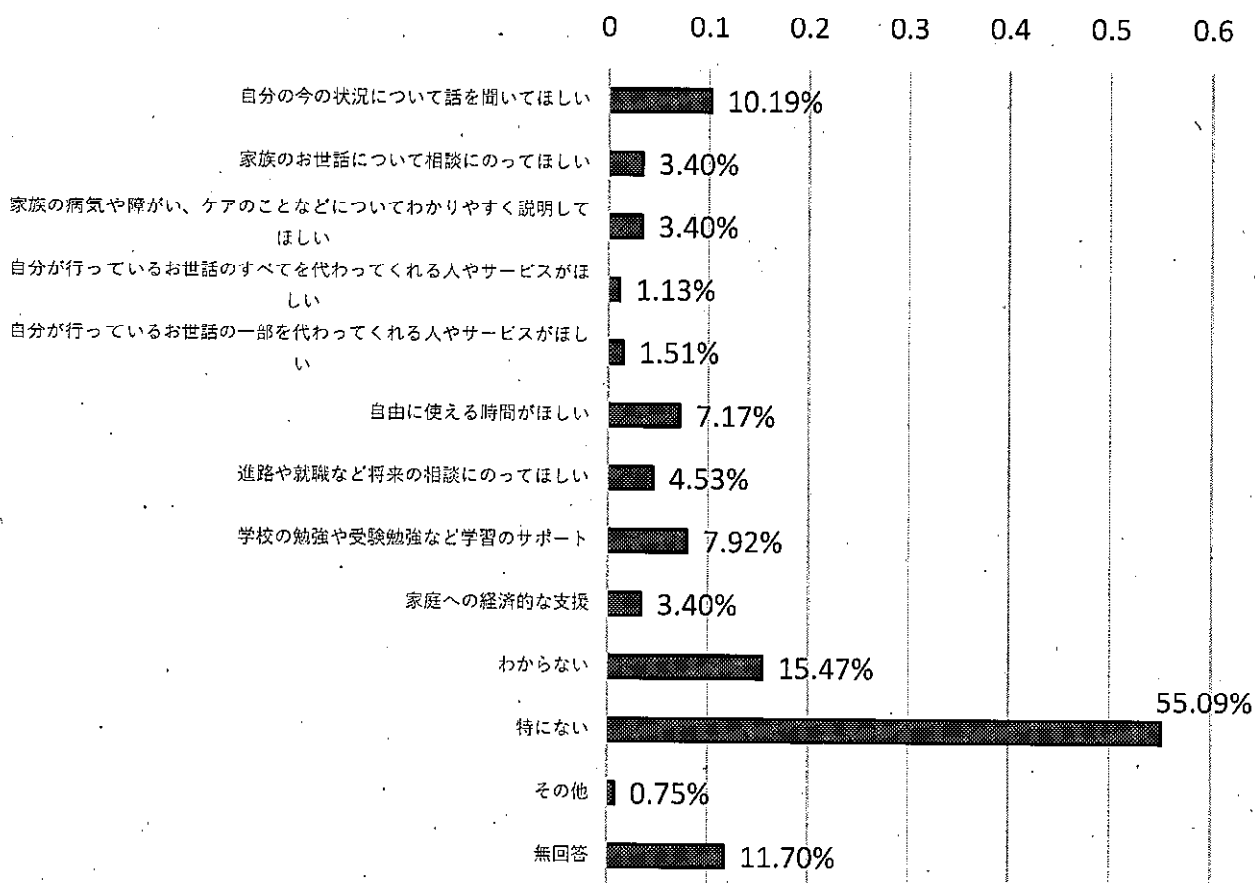


□ いる ■ いない ▨ 無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	いる	いない	無回答
188	138	32	18
	73.4	17.02	9.57

(19) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

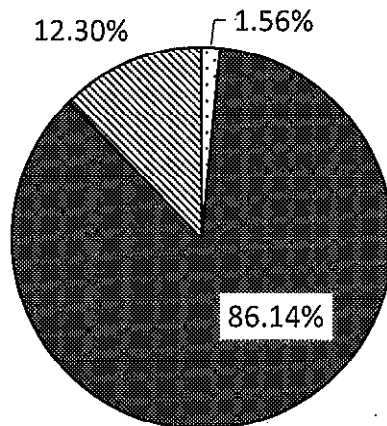


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	特にない	その他	無回答
265	27	9	9	3	4	19	12	21	9	41	146	2	31
	10.19	3.4	3.4	1.13	1.51	7.17	4.53	7.92	3.4	15.47	55.09	0.75	11.7

4 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーの自覚

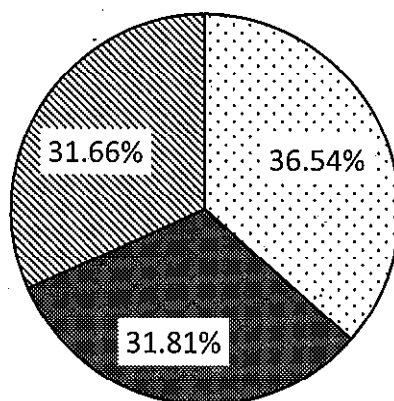


□あてはまる ■あてはまらない ▨わからない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	あてはまる	あてはまらない	わからない
9,495	148	8,179	1,168
	1.56	86.14	12.3

(2) ヤングケアラーの認知度

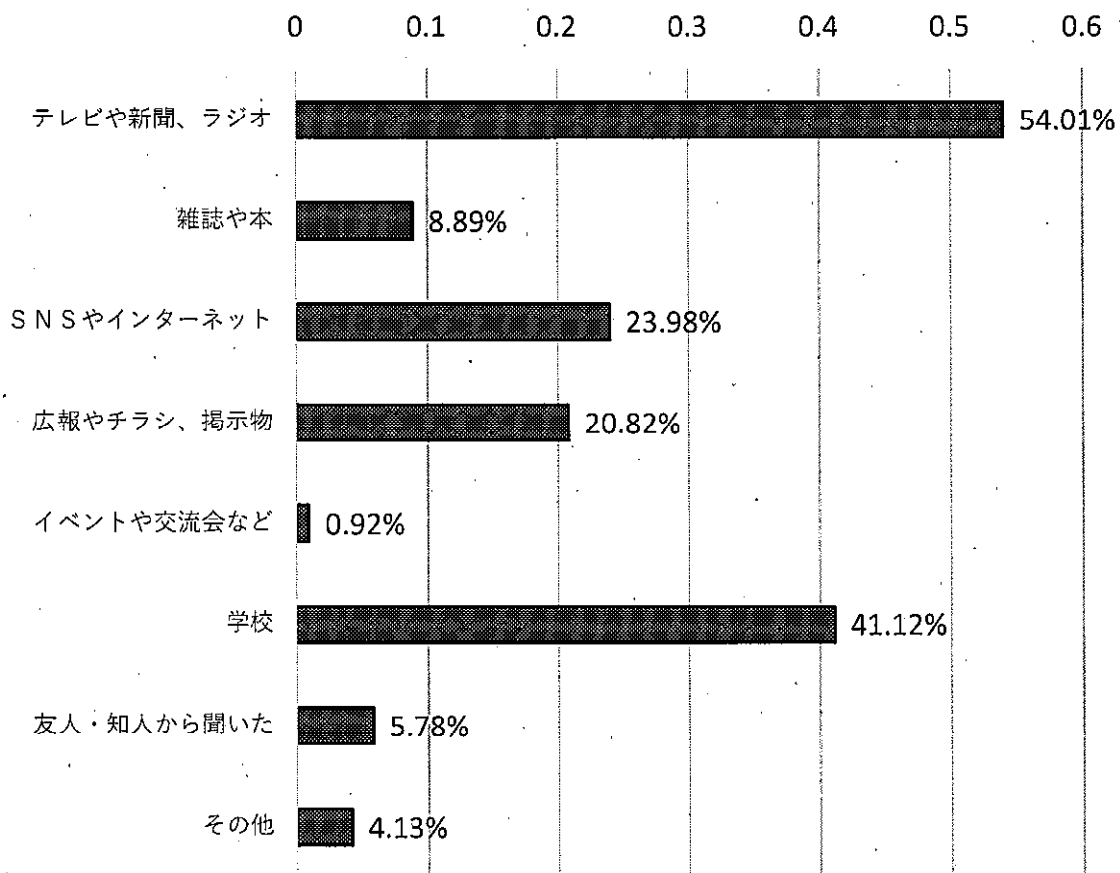


□聞いたことがある、内容も知っている
 ■聞いたことはあるが、よく知らない
 ▨聞いたことはない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	聞いたことがある、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない
9,495	3,469	3,020	3,006
	36.54	31.81	31.66

(3) ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）

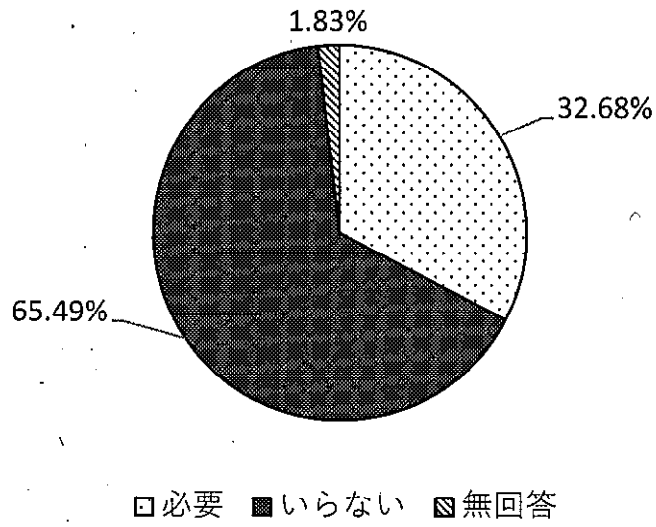


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他
6,489	3,505	577	1,556	1,351	60	2,668	375	268
	54.01	8.89	23.98	20.82	0.92	41.12	5.78	4.13

※「該当者数」の 6,489 は、Ⅲの4の(2)の設問において、「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」のいずれかに回答した人数。

(4) ヤングケアラーの支援に関する情報の必要性



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	必要	いらない	無回答
9,495	3,103	6,218	174
	32.68	65.49	1.83

5 自由記述

調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

(1) 子どもの声

子供が、家族の世話をしているのは、大変だけど理解してあげられる人がいればよいし、その子供の存在に気付いて手伝ってあげられる人がいれば、ヤングケアラー自身の孤独だという考え方が少しでも変わると思う。あと、そのことを言いたくない人だっているはずだから、絶対にほかの人に言わないように悩みを聞いてあげることが大事だとも思う。

お世話をすることはとても大事なことだと思うが、自分のしたいことを満足にできないんじゃないかなって思う。自分の時間を十分に取れていないから、ストレスがたまったり、疲れがたまったりしてお世話にも影響が出てしまうのではないかな。自分の時間をとることが必要だと思う。また、介護をしてくれる施設が必要だ。

アルコール依存症や薬とか、自分が悪いのにそのせいで大人がやることを、子供に押し付けたりするのは、良くない。もっと子供の気持ちを分かってそれに寄り添ってほしい。子供だってやりたくてやってるわけじゃない。本当は誰かに相談したいのに相談できないのかもしれないから。もっと自分の時間を与えてほしい。分かってほしい。

私たちが学校に通えているということが当たり前じゃないという考えに立って、周りの人にヤングケアラーがいたら、少しでも自分のできることを手伝ったりして少しでも楽になってほしいです。

学校に通いながらお世話をしている子もいて、部活などを早く上がる時があるのに、先輩がお世話をしている子を責めていたりして、とてもしんどいと言っていたから、相手の事情、気持ちを知ってあげてほしい。受験の時はよりしんどかったと言っていた。

家族のためにお世話をするというのは大事なことだと思うけど、まだ私たちと同じ子供だから、誰かを頼ったり、甘えたりすることも大切だと思います。また、周りの人は話を聞いてあげたり、少しでも自分に出来ることはあるのかを考えることも大切だと思います。

僕の場合、ヤングケアラーではないんですけど、4ヵ月ぐらい家族のお世話をしました。一人じゃなくて、お父さんもいたからそんなに大変じゃなかったけど、これを毎日やっているときついなーと、思いました。そんな子たちが気軽に電話ができる場所が必要だと思います。そして僕たちも、その子が少しでも息抜きできる時間をつくるのに協力したらいいと思います。

(2) 話を聞いてほしい、理解してほしい

ヤングケアラーって周りの人に言えなかったり、言いたくなかったりするから、無理に聞き出さなくていいけど、困ってそうだったり辛そうだったりして、少しでも言いたそうにしていたら聞いてあげること、そして、あまりにもひどそうだったら相手の承諾を得て相談先を決めること、そして、解決策を見つけてあげることができたらいいのかなと思います。結構たまったりすると思うから感情をあらわにしても受け止めてあげること、相手がすっきりするまで話を聞いてあげればいかなって思います。ちゃんと話を聞くだけで、相手は、聞いてくれる人がいた、少し言ってもいいんだと思って安心して相談しやすくなると思うので、しっかり聞いてあげるのは大事なかなと思います。だから、もっといろいろなことを深く知って伝えて相談できる場所があるんだということを知れたら、ワンクッションはさんでから相談先として決められると思うので、もっと積極的に教えてほしいし、広く伝えてほしいと思います。

家族のお世話をしている子が、学校に遅れてしまったり、授業中寝ていたり、宿題を忘れていたりしても怒らずに、まずは、話を聞いてあげてほしいです。いないとは思いますが、家族のお世話をしている子をいじめている子がいたりしたら、クラス全体でヤングケアラーのことを話したほうがいいと思います。また、その子のことをわかってあげてほしいです。その子が悲しんでいて、でも友達には相談できなかつたら、周りの大人や先生が表情、しぐさなどで気づいてあげたらいいと思います。

私は、家族のお世話で自分の時間が取れていないと思うので、学校で相談したり、大人の人が相談に乗ってくれたりする身近な場所が必要だと思う。また、相談したい人がいるのなら、その子に対して相談をちゃんと聞いてほしいです。また、いつもの様子がおかしいと思ったら進んで聞いてあげてほしいです。

プライベートな事だから、はずかしくてみんなに積極的に言うことが出来ないはずだからこそ、学校や大人たちが話を聞く場所などがたくさん必要だと思います。その手段がたくさんあればもっといいと思います。

ヤングケアラーの中には自分の時間や寝る時間を削ったりする人はたくさんいるかもしれないから、周りの人が少しでも異変に気づいたら相談にのったり支援することが大切だと思う。

病気などの人の世話をほったらかしにするのは出来ないのだから、回りの大人が気を遣ったり、しっかりと話を聞いたりして、今の気持ちを知っていくことが必要だと思います。

相談に乗ってあげるのが必要だと思います。自分ももしヤングケアラーだったら相談に乗ってもらい、共感・応援をしてもらうだけでも少し気持ちが楽になると思います。

してもらいたいことはありません。

だけど、家族のお世話をしている子供のために必要なことは、近くに相談できる人が一番必要だと思います。

このアンケートのような、ヤングケアラーの調査を定期的に行い、悩みを聞いてあげるということが大切だと思います。

ヤングケアラーについて、友達にも、先生にも、学校にもきちんと理解してほしい。

ヤングケアラーについてきちんと分かり合えて、気軽に話せる関係が欲しい。

(3) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり、子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

その子どもが家族のことを相談する場所や人が必要だと思う。さらに、そのような子どもを支援する施設や活動も必要だと思う。学校や周りの大人には子どもが傷つかないように相談に乗ったり、もっと「ヤングケアラー」のことを広めてより多くの人共感できるようにしてほしい。

見つけたら出来るだけお手伝いしたい。私は、相談出来る窓口をつくり電話でも対応できるようにして、窓口の場所、対応できる電話番号なども書いて、ポスターを作り、色んな所に貼ってほしいです。

自分が相談に乗ったり、大人にも乗ってもらったり、相手がお世話しなくてもいいような状態、またはキッカケをつくってあげたい。必要だと思うのは、相談窓口やお世話を無料で代わってくれる人や場所だと思いました。

困っている子が「気軽に」「安心して」相談をすることができる場所や、時間をとる。大人が勝手に思った解決方法を、強引に子供に押し付けないでほしい。過剰にいろいろなことを聞かないでほしい。

家や家族のことなので、気づきにくくなってなかなか相談できない人が多いと思います。そういった方々がお互いのことを話せるような場を設けてみたらいいと思います。

ヤングケアラーで、苦しんでいる子たちの、相談室などの、相談できる機会を設けてほしい。私達に何が出来るのか考える機会も、設けてほしい。

(4) 周囲の大人の理解や寄り添い

周りの大人も協力して、一緒にやってあげたり、少し休憩する時間も作ってあげたい。また、知っている人は気にかけてあげたり、あるいは手伝ってあげたりしたほうがいいと思う。学校の先生も、そういう人がいるのを知っているのであれば気にかけてあげてほしい。

家族のお世話をしているけど、私達と同じ子供なんだから、遊びたいと思うし、自分の時間がほしいと思う。そういう自分の好きな事ができる時間が必要だと思う。周りの大人たちも、お世話の手助けをしたりして、家族のお世話をしている子供たちの気持ちに余裕を作ってあげてほしい。

家族のお世話をしている子に、たくさん遊ぶ時間や、勉強をする時間、寝る時間などをとれるように、周りにいる近所の人などに声掛けをして、その子のことをもっと知ってもらい、手伝うようお願いしてみると協力してくれると思います。

周りの大人が気づいてあげて今の現状について知ってもらい、どうにかする方法を教えてください。学校でもアンケートや異変に気づいたら話を聞いてあげることが必要だと思いました。

お世話をしている子供には自分の時間が必要だと思うし、周りの大人や学校はその子のメンタルケアやサポートができると生活しやすい環境になると思う。

まわりの人が気付き、声をかけ、手を差し伸べることで、ヤングケアラーが「自分は一人じゃない」「誰かに頼ってもいいんだ」と思える環境づくりが必要だと思う。

多分ヤングケアラーだと言いたい人と言いたくない人はいると思うので、しつこく聞いたりせずに少しずつ寄り添ってあげれば良いと思います。そして、周りの人も「そういう人もいる」と思って、行動しなければならないと思います。ヤングケアラーの人が相談窓口に言いづらいと思うので、近くの人でもそういう話題を作ったり、学校もキャンペーンをやったりすれば良いかもしれないです。

(5) ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと

ヤングケアラーは、どれくらいのことをしている人なのか詳しく知る場所を作ってほしいです。手伝いとヤングケアラーの分けられている線がよく分からないから、もっと説明会とかを身近にしてほしいと思います。

大人がやるべきことを子どもがしている家庭が実際にあるからその悩みをすこしでも解決するためにも、このようなアンケートをする以外にも一人一人の声を聞くことが大切だと思う。

ヤングケアラーについて幅広い世代に知ってもらい、ヤングケアラーについて身近に感じてもらううえで募金ができる場を増やしたり相談できる場を増やすことが必要だと思います。

テレビなどでヤングケアラーの人が、「自分を特別扱いしてほしくない」と言っていたので、ヤングケアラーに対応する取り組みに少し工夫を加えれば良いと思います。

学校としてヤングケアラーをもっと知らせていって、差別など偏見をなくすことが大事だと思う。

学校や周りの大人にしてもらいたいことは、ヤングケアラーのことをもっと理解することです。

(6) その他支援の充実等

テレビで見たのですが、親が支援を拒んでしまうことがあるらしいので、まずは匿名で専門家に相談できるような制度を整えることが必要だと思います。また、相談されたら、同情して終わりにするのではなく、具体的な案を出してあげるように指導すれば、相談を諦めてしまわないと思います。後は先生方がケアラーについて正しい知識を持つことが必要だと思います。

ヤングケアラーに当てはまる人を対象に今後の進路を決めるための「進路相談会」などを開いて少しでもその人が良い人生になるような手助けが必要なのかなと思いました。

ボランティアや介護士などの方を手配させたり、食事などの配給、自分一人じゃないことをヤングケアラーに伝えたりすることが必要だと思います。また、ヤングケアラーの方たちが、世の中に出るときに困らないようにするためにイベントや勉強会などの設備も作るといいと思います。

学校と家以外に心と体を休められる、第3の場所を見つけられるような支援が必要だと思う。

誰かに相談できるだけでもきっと少しは楽になれると思うので、ヤングケアラー専門の相談所を作るといいかなと思います。あと、実際にその子のうちに行って手伝ってあげられたらいいのかなと思いました。

無料で介護などの手伝いをしてくれる人を派遣。 介護施設や保育施設を増やす。 資金などの支援。 緊急時（その対応が必要と判断したとき）保護などをする。 家族の許可が出ていなくても本人の判断で行動ができるようにする。（将来へ向けてなど）
子ども時代に子どもらしいことができないことはつらいから、ヤングケアラーの人に向ける募金活動を行うべきだと思います。（施設代・食料代などに使われる。）
奨学金制度やその他学習支援が必要ではないか。
分かりやすい支援窓口。分かりやすいことがポイントだと思う。
必要なものをそろえてあげたり簡単に相談に乗れるような施設などがあつたほうがよいと思う。子供が一人でお世話をするんじゃなくて身の回りの大人に助けをもらう。
いつでも気軽に話せる相談場所や家で学習出来るアプリやサイトが必要だと思う。
家族をお世話してくれる人に来てもらったりするのが大切だと思う。子供だけでやるのではなくて、周りにいる大人や区、市の人たちでその家族を支える必要があると思う。
月に一度ぐらいの頻度でヤングケアラー同士で集まり遊んだり話したりする交流会のようなことをしたらいいと思う。

(7) 学校におけるサポートや配慮

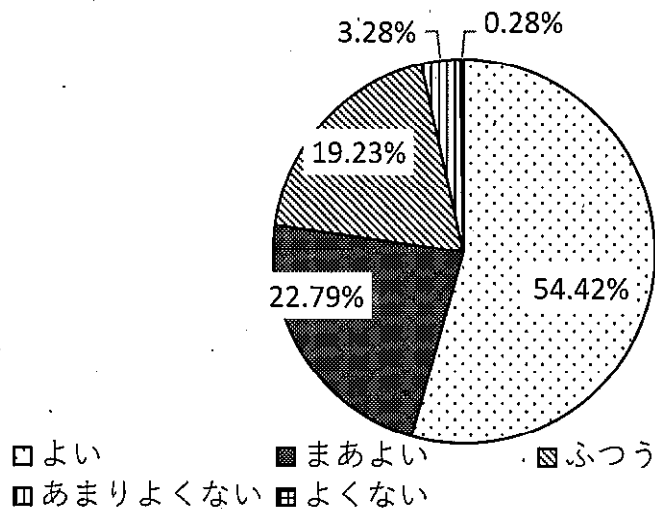
子供たちのために、ヤングケアラーの特別授業をすることが必要だと思います。学校や周りの大人にしてもらいたいことは、家族のお手伝いをしている子供たちのために、ちょっとした時間でも勉強できるようにオンラインで教えたり、もし可能であれば、学校の先生が家に行ったり、ヤングケアラーが学校へ行ったりすることを手助けしてもらいたいと思います。
学校の先生がヤングケアラーと思われる人に話しかけてクラスにヤングケアラーがいるのか、誰がヤングケアラーなのか、を把握してほしい。アンケートも必要だと思う。
学校の場合、先生がヤングケアラーの子に寄り添って、事情を理解して、宿題の量を調整してあげるなどの手助けをとってあげる。また、クラスメイトにも、そのことを理解してもらう必要がある。
相談できる人が一人でもいればいいなと思います。学校の先生やスクールカウンセラーの先生とかに少しでも相談して、自分で悩みを抱えないで力になってくれる人がいればいいと思います。
学校1つ1つに相談員などを置いたり、学校を休みがちな人達へ「自由参加」のお悩み相談会を開いたりして、こころが落ち着いて人に話しやすいようにする。
その子供に直接聞くのではなく手紙など文で悩みを聞いてあげる。
様子が変だったら声をかける。一ヶ月に一回は担任の先生が今悩んでいることについて聞く。
学校に行きたくてもいけない子供のために、家でできる無料の勉強アプリを作ること。
ヤングケアラーの子が、学校などで部活に入ることができる環境が必要だと思う。
何カ月かに1度、ヤングケアラーと思われる子の家庭訪問を行い、家に違和感がないかを確認することでその子が話せなくても気付く事が出来るかもしれない。

ヤングケアラーについて理解し、ヤングケアラーが、課題などを提出し忘れても理由を聞き、理由によっては提出期限を伸ばしたりする。

IV 市立高等学校生徒について（調査結果）

1 現在の健康状態について

(1) 健康状態

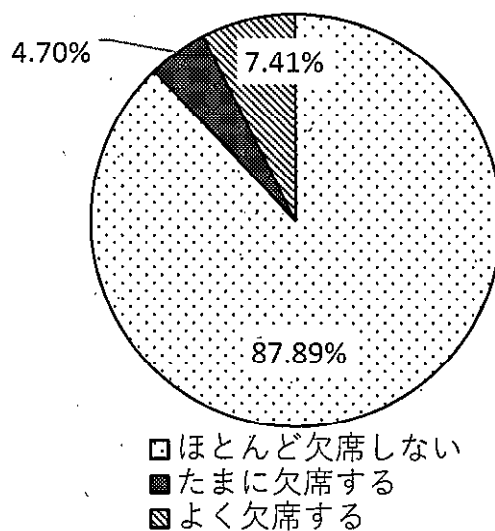


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
702	382	160	135	23	2
	54.42	22.79	19.23	3.28	0.28

2. ふだんの生活について

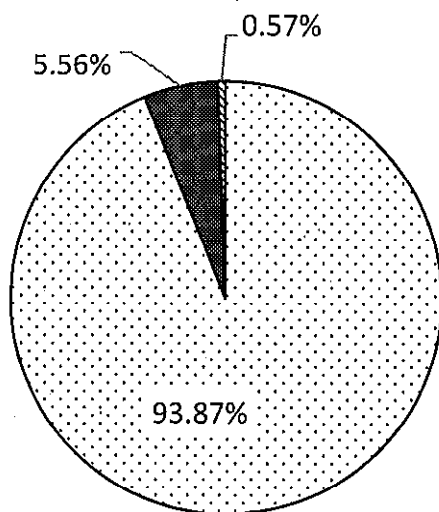
(1) 学校への通学状況：出席状況



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
702	617	33	52
	87.89	4.7	7.41

(2) 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

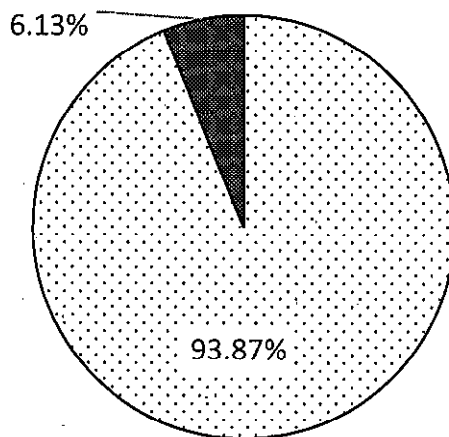


□ほとんどしない ■たまにする ▨よくする

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	ほとんどしない	たまにする	よくする
702	659	39	4
	93.87	5.56	0.57

(3) 部活動への参加状況

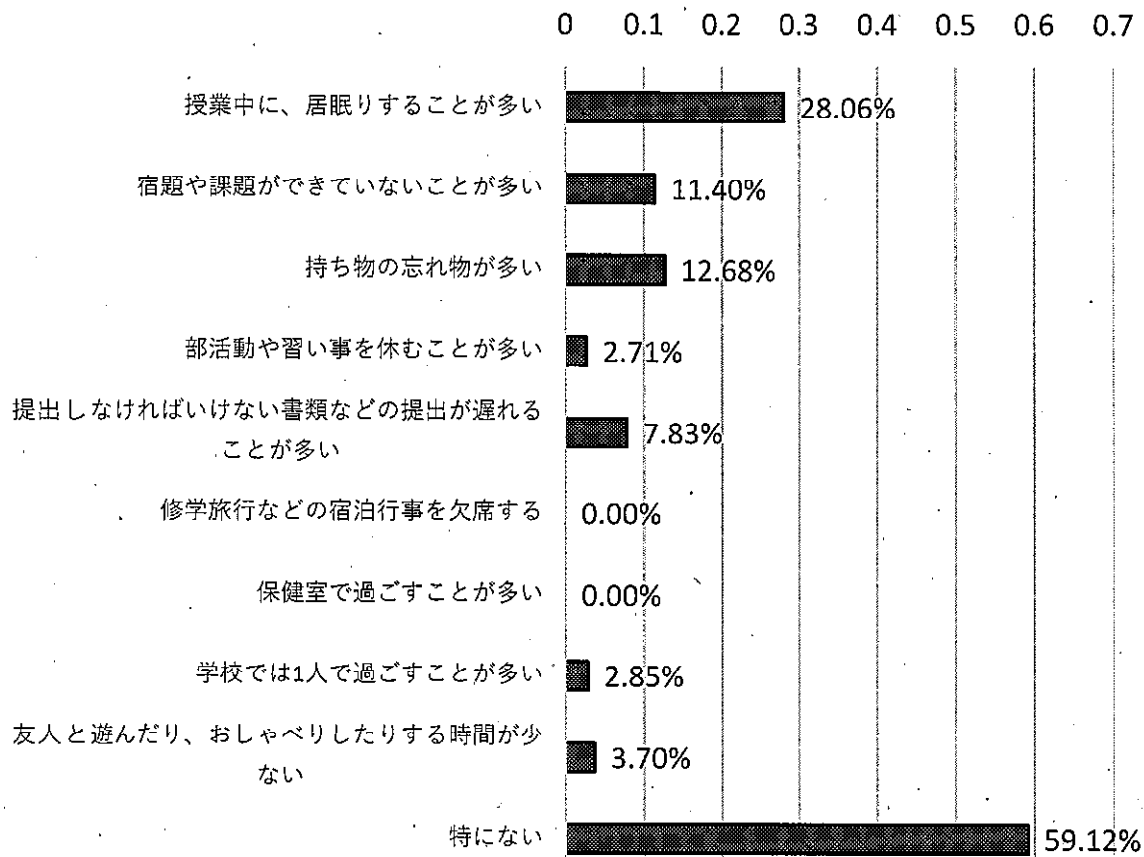


□参加している
■参加していない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	参加している	参加していない
702	659	43
	93.87	6.13

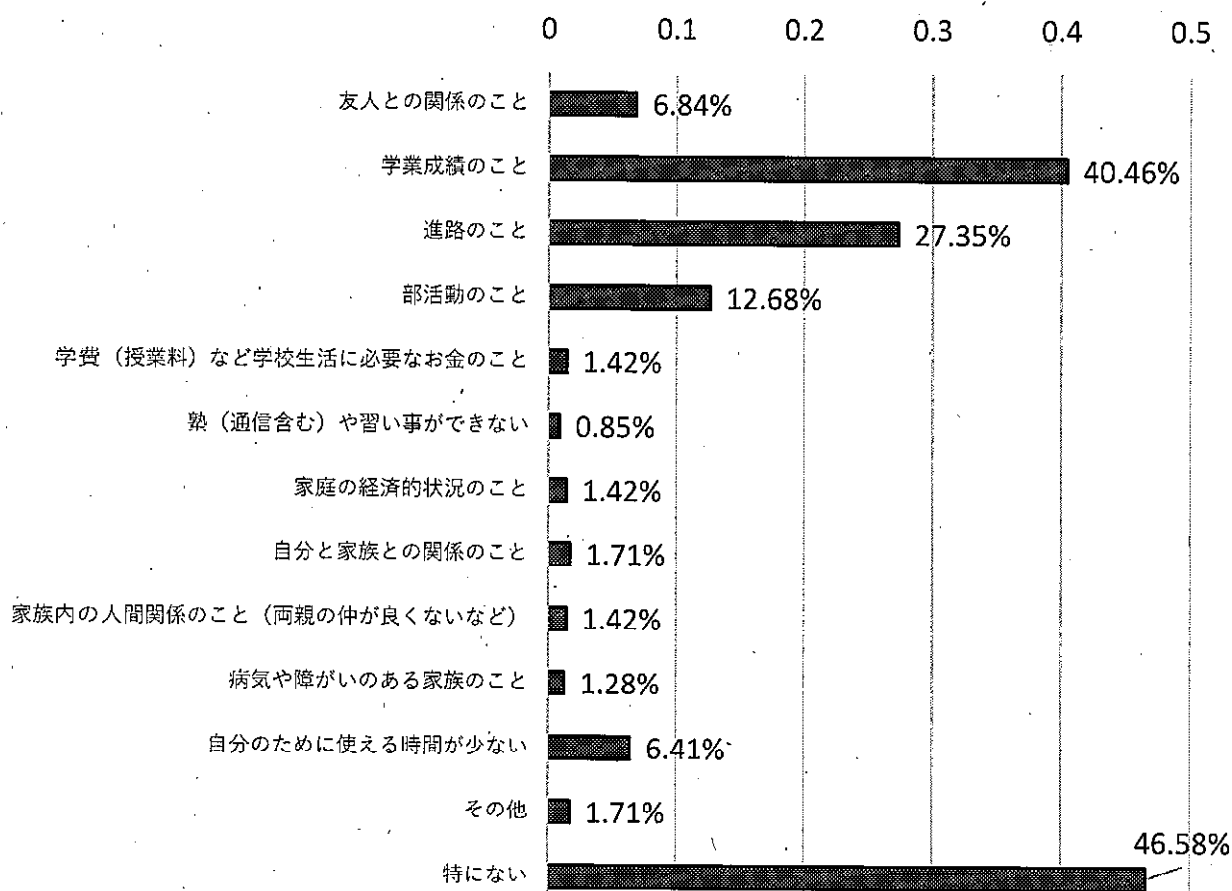
(4) ふだんの学校生活等であてはまること (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	授業中に、居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
702	197	80	89	19	55	0	0	20	26	415
	28.06	11.4	12.68	2.71	7.83	0	0	2.85	3.7	59.12

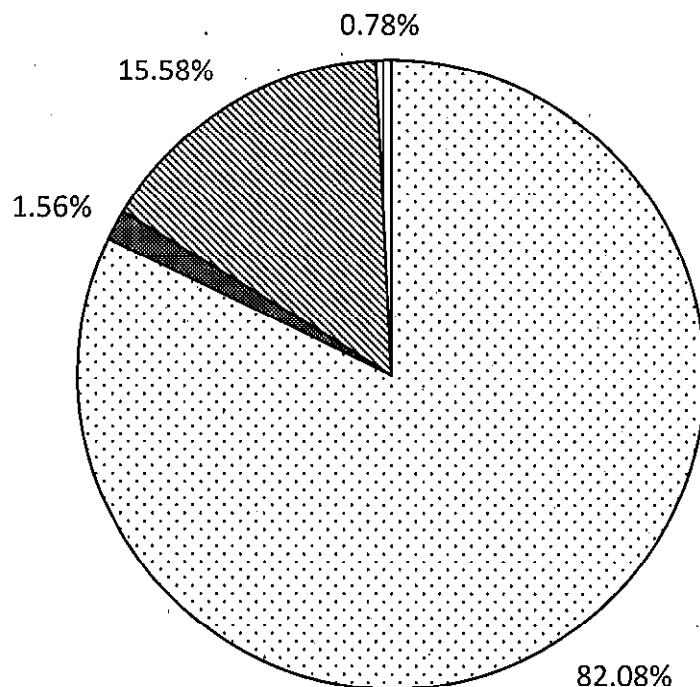
(5) 現在の悩みや困りごと (複数回答)



(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	必要なお金のこと	学費 (授業料) など学校生活に	ない (通信含む) や習い事ができ	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	の仲が良くないなど)	家族内の人間関係のこと (両親	病気や障がいのある家族のこと	い	自分のために使える時間が少な	その他	特にない
702	48	284	192	89	10	6	10	12	10	9	45	12	327			
	6.84	40.46	27.35	12.68	1.42	0.85	1.42	1.71	1.42	1.28	6.41	1.71	46.58			

(6) 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無



- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- ▨ 相談や話はしたくない
- 無回答

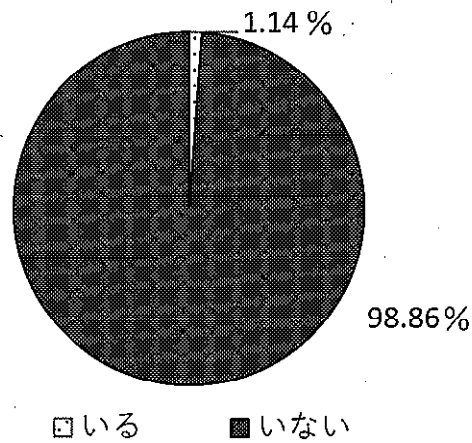
(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話はしたくない	無回答
385	316	6	60	3
	82.08	1.56	15.58	0.78

※「該当者数」の 385 は、IVの2の(5)の現在の悩みや困りごと(複数回答)において、「特になし」とのみ回答した数を有効回答数 702 から除いたもの。

3 家庭や家族のことについて

(1) 世話をしている家族の有無

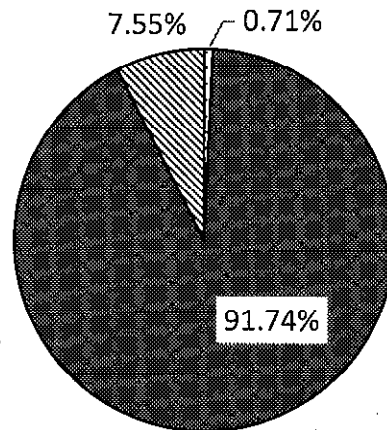


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	いる	いない
702	8	694
	1.14	98.86

4 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーの自覚

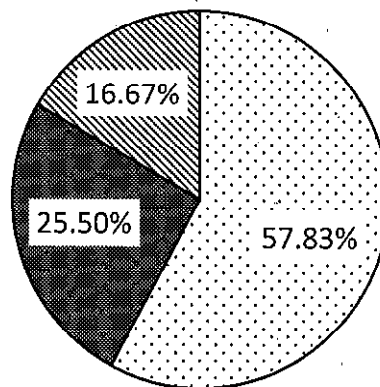


□あてはまる ■あてはまらない ▨わからない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	あてはまる	あてはまらない	わからない
702	5	644	53
	0.71	91.74	7.55

(2) ヤングケアラーの認知度

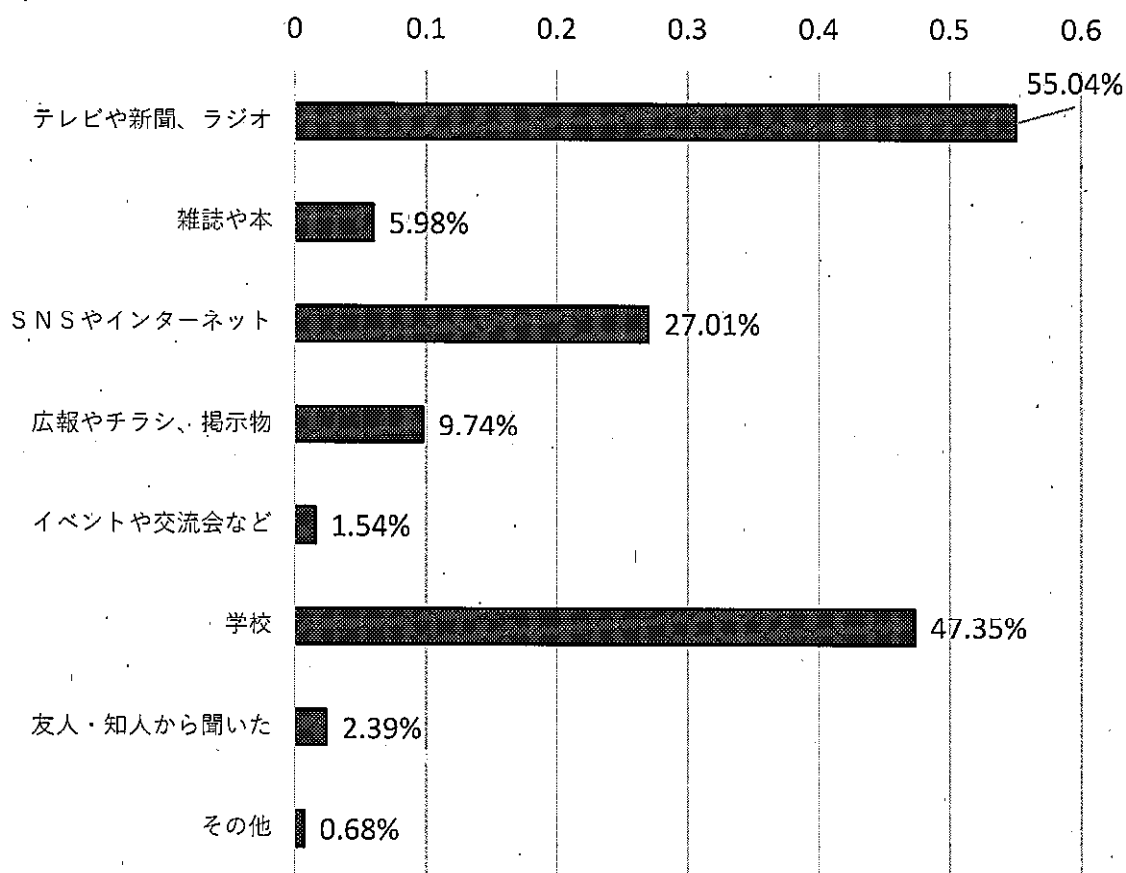


□聞いたことがあり、内容も知っている
 ■聞いたことはあるが、よく知らない
 ▨聞いたことはない

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはある が、よく知らない	聞いたことはない
702	406	179	117
	57.83	25.5	16.67

(3) ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）

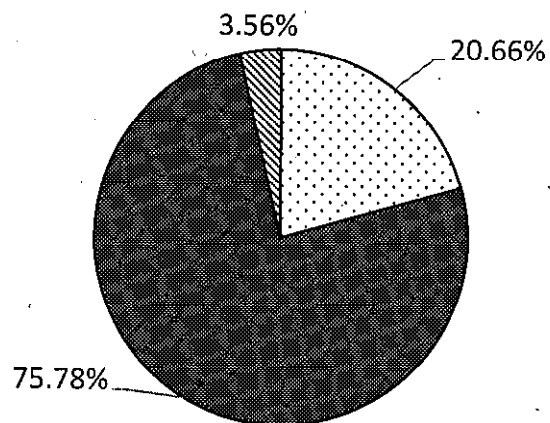


(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他
585	322	35	158	57	9	277	14	4
	55.04	5.98	27.01	9.74	1.54	47.35	2.39	0.68

※「該当者数」の 585 は、IVの4の(2)の設問において、「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」のいずれかに回答した人数。

(4) ヤングケアラーの支援に関する情報の必要性



□必要 ■いらない ▨無回答

(単位 上段：人 下段：割合%)

該当者数	必要	いらない	無回答
702	145	532	25
	20.66	75.78	3.56

5 自由記述

調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

(1) 子どもの声

自分もそうでしたが、夏休みなどの課題図書としてヤングケアラーについての本を読むことがいいと思いました。

簡単に解決できる問題ではないと思う。自分にできることがあればやりたい。

生活するにあたって、自由な時間が取れなくなったら、相談してほしい。

自分のことだけでなく周りの人のことも考えることが大切だと思った。

自分もヤングケアラーについて聞いたことがなかったのもっとたくさんの人に知られるべきだと思う。

(2) 話を聞いてほしい、理解してほしい

ヤングケアラーの実態を把握するこのようなアンケートを積極的に行う方がよいと思う。

(3) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり、子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

一人ひとりが、ヤングケアラーについての知識をたくさんもち、周りの人がヤングケアラーに気づきやすい環境を作ることが大切だと思う。

ヤングケアラーの人も、周りを頼っていいということが普通になるような社会にすべきだと思う。

悩んでる人がいたら可能な限り、話を聞くことが重要だと思う。

ヤングケアラーの方が、相談できる環境を整えたり、ヤングケアラーの方へ、相談にのってくれる人を紹介したりすることが必要だと思う。

ヤングケアラーがいることを知ってもらい、自分がヤングケアラーだということを隠さないでもいい環境をつくる。

(4) 周囲の大人の理解や寄り添い

本当に支援が必要な人って誰にも頼れないと思うので、周囲の大人が気づいてあげるべきだと思います。

いつでも助け合うことができるように、近所の人とコミュニケーションをとり、交流関係を深めておくことが必要だと思った。

周囲の理解や支援などが必要だと思う。

周囲の人が話を聞いてあげること。

(5) ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと

まだ世の中的には、ヤングケアラーについて知らない人もいるので、引き続き、若者がよく見ているSNSや学校などで支援の情報をひろめていくべきだと思います。

今回のようなアンケートをとる頻度を増やすなどして、もっと多くヤングケアラーについて知らせるべきだと思います。

まずは、ヤングケアラーの知識をもっと多くの人がつけていく必要があると思う。

テレビやSNS、動画配信等で、ヤングケアラーについて知らせたり、悩みを相談できる機関を紹介したりした方がよい。

(6) その他支援の充実等

認知度は低くないと思いますが、それらの方々がヤングケアラーから、市町村の救済によって脱することができた、という話を見聞きしたことがありません。もっと市町村は踏み込んだ調査と物質的な支援や、現実的な対策を断行すべきだと思います。

介助や家事をやりたくてやっている訳では無い人もいると思うので、その人達の生活も保障することが必要だと思う。

誰かに言いにくくて、自分で背負い込んでしまいがちだから、もっと身近で接しやすい相談窓口とかを作ったほうがよい。

国が積極的に支援して、被介護者を施設に入れるべきだと思う。

障害者や高齢者をサポートするシステムの見直しが必要だと思う。

少子高齢化の対策が必要だと思う。

社会補償の充実により、家庭の負担を減らすべき。

(7) 学校におけるサポートや配慮

学校側がどの生徒がヤングケアラーに該当しているのか把握しておく必要があると思う。

ヤングケアラーについて、それがどのようなものなのかを小学校の時から知っておくべき。

学校の授業で、ヤングケアラーについて教えた方がよい。

地域や学校による積極的な支援が必要だと思う。